

英語科目についての全般的説明

総合英語について（必修科目：1年次）

1. 目的および目標

一年次の必修科目である総合英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

総合英語AⅠ/AⅡについては、全担当教員が英語母語話者とする。会話力を中心に習得することを目指しており、その目標は英語圏における日常会話である。きめ細かな対応が必要となるため、入学時にプレイスメント・テストを行い、能力別少人数クラス編成を行っている。

総合英語BⅠ/BⅡは、総合英語AⅠ/AⅡを補完すべく、読解力を中心に学ぶ。目標は英語で発行された新聞などの印刷物を自助努力をもって理解する能力を獲得することである。

総合英語Cは、ある技能やジャンルについての技術的側面や知識教養的側面を鍛錬するものであり、それによって総合英語AⅠ/AⅡやBⅠ/BⅡにおける学習を深め、発展させることを目標としている。

2. 科目の内容

総合英語A（会話が中心。聴解、作文も行う。）

総合英語B（読解が中心。聴解力、作文能力、あるいは発信能力も並行して行うこともある。）

総合英語C（技能中心の授業、あるいはジャンルに絞った授業。より専門的な英語を学ぶ授業。具体的内容は読解、聴解、作文などさまざま。）

3. 履修上の注意

総合英語は全て必修科目であり、演習形式で行われる。以下の点に注意されたい。

- 1) 出席率が3分の2以上ないと、受験資格を失う。（九州工業大学工学部学修細則 第8条2）
- 2) 一年次に全て履修することを原則とする。未履修となった場合には、次年次に同一曜日、時限の同一教官による授業を履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、一年次に単位修得することを強く勧める。なお、教員によって再履修の条件が異なる場合があるので、必ず当該教員に事前に相談すること。
- 3) 総合英語AⅠ/AⅡおよび総合英語BⅠ/BⅡはⅠからⅡへと段階的な授業計画がなされており、再履修の場合、AⅠあるいはBⅠから履修することが望ましい。総じてAⅡ、BⅡからの再履修は困難である。
- 4) 編入生の場合、時間割上履修可能な時限を選び、必ず当該教員に相談すること。
- 5) 総合英語AⅠ/AⅡについては、入学当初に行われるプレイスメント・テストを必ず受けること。また受けそこねたものは、必ず総合英語Aコーディネーターへ相談すること。
- 6) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども主な評価要素となる。

上級英語について（選択科目：2年次以上）

1. 目的および目標

総合英語で培った能力を更に伸ばすのが上級英語の目的である。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

2. 科目の内容

これらはすべて目安であり、詳細な内容についてはそれぞれの科目のシラバスを参照すること。

上級英語A（会話、コミュニケーション能力など。英語母語話者が担当。）

上級英語B（読解、作文能力、コミュニケーション能力など。）

上級英語C（読解、聴解、批判的思考能力など。）

技術英語（工業英語など、専門的知識を英語で身に付ける。）

3. 履修上の注意

- 1) 履修年次に気をつけること。また、履修希望者が多い場合、人数制限を行う。担当教員の指示に従うこと。
- 2) 上級英語はⅠからⅡへと段階的な年間計画のもとに開講されている。ⅠとⅡの両方を履修することが望ましい。
- 3) 演習形式のため、成績評価には出席や平常点を含む。定期試験のみの評価はしない。
- 4) 同一科目の複数履修は認めない。（半期に上級英語Aを2コマ、など）
- 5) 原則として上級英語の履修は、全ての総合英語科目の単位修得を条件とする。
- 6) 鳳龍賞によるオールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、履修していない上級英語科目分をもって行う。

（注）大学院においても「英語」、「総合技術英語」、「言語学特論」、「国際関係概論」、「批判的テキスト理解」を開講している。こちらを聴講（履修は不可）する希望の学部生は担当教員に連絡すること。

総合英語 A I Comprehensive English A I

全学科 1 年次 前学期 必修 1 単位

担当教員 Ian Ruxton, Robert Long, Adam Stott,
Mark Gibson, Bruce Haendel, Chris O'Sullivan, Michael
Mackay, Gareth Steele, Raymond Stubbe

1. 概要

- 授業の背景: Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world.
- 授業の目的: The main aim is to teach students to speak and understand spoken English.
- 授業の位置付け: Our course is the only one taught by native speakers.

2. キーワード

speaking, listening, writing, communication, culture

3. 到達目標

- (a) To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- (b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- (c) To practice the writing of English paragraphs and compositions
- (d) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures

4. 授業計画

1. Placement Test
2. Meeting new people.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Test

5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

Wednesday students will be sorted into classes based on performance in a placement test at the beginning of the year.

出席が3分の2以上ないと履修資格を失う。

(工学部学修細則 第8条2)

絶対一年生の間この単位を取ってください！！

7. 教科書・参考書

- (1) Marc Helgesen, et al.: New English Firsthand (Lingual House)
- (2) Instructors may use other approved textbooks at their discretion.
- (3) A monolingual (English - English) dictionary is strongly recommended.

8. オフィスアワー等

Wednesdays, 12-2.30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 B I Comprehensive English B I

機械知能工学科・電気工学科・物質工学科 1 年次 前学期

必修 1 単位

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英文エッセイの要旨を的確に捉える読解力を養うには、逐語訳よりもパラグラフ・リーディングの練習が効果的である。パラグラフ・リーディングを実践するには、まず英文エッセイの構造を知っておく必要がある。本授業では、英語のパラグラフおよびエッセイ全体の構造を段階的に学習し、比較的短くて平易な英語の文章でパラグラフ・リーディングの練習をする。また、リスニングの練習も合わせて行なう。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング

3. 到達目標

英文エッセイの構造を理解し、比較的短くて平易な文章のパラグラフ・リーディングが出来るようになる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The English Paragraph
3. Main Ideas and Topic Sentences
4. Transitions in a Paragraph
5. Description and Illustration
6. Classification and Analysis
- 7 中間試験
8. Cause and Effect (I)
9. Comparison and Contrast (I)
10. Personal Opinion and Problem-Solution
11. From Paragraphs to Essays
12. Comparison and Contrast (II)
13. Analysis
14. Cause and Effect (II)
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加50%、中間試験25%、期末試験25%とする。

総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。

成績評価のフィードバックはオフィスアワーで対応する。

積極的に授業活動に参加すること。

7. 教科書・参考書

S.Kathleen Kitao, Kenji Kitao. From Paragraphs to Essays: Improving Reading and Writing Skills. (英潮社)

行時潔, Daniel Droukis. Experience an English Program! (松柏社)

8. オフィスアワー等

火曜日 5 限

(教官室: 共通教育棟3階S305)

総合英語 B I Comprehensive English B I

建設社会工学科 電気工学科 物質工学科 1 年次 前学期

必修 1 単位

担当教員 村田 忠男

1. 概要

前期は、まず、国際的な共通言語となった英語についての認識を高めることからスタートする。不十分な修得のままである英語発音の再訓練をその後の一貫した柱とし、それに並行して、朝日英語年鑑の「国家、政治」を勉強し、社会各方面への関心を高め、英語力、語彙力を高める。

2. キーワード

国際英語、発音、国家、政治、

3. 到達目標

英語マスメディアやIT英語情報を利用できる英語力獲得を目指し、高校までの基礎英語力をさらに向上させたい。

4. 授業計画

1. 国際英語のすすめ I
2. 国際英語のすすめ II
3. 発音記号：母音の発音法 I
4. 発音記号：母音の発音法 II
5. 発音記号：子音の発音法（破裂音 I）
6. 発音記号：子音の発音法（破裂音 II）
7. 発音記号：子音の発音法（摩擦音 I）
8. 発音記号：子音の発音法（摩擦音 II）
9. 発音記号：子音の発音法（破擦音）
10. 発音記号：子音の発音法（鼻音、接音）
11. 連結発音 I
12. 連結発音 II
13. 朝日英語年鑑の整理（国家）
14. 朝日英語年鑑の整理（政治）
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を50%、期末試験を50%とする。
活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書（教科書：1－2、参考書：3）

1. 村田忠男、田端敏幸：「新版」カプセル英語発音（三修社）
2. 朝日新聞ジャパン・アルマニャック2006（朝日新聞社）
3. 智恵蔵 2006（朝日新聞社）

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30-4：00と水曜 1：00－2：30。
講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、双方の都合のいい時間を設定できる。
murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

総合英語 B I Comprehensive English B I

機械知能工学科・電気工学科・物質工学科 1 年次 前学期

必修 1 単位

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

英語を通じ環境や社会問題に関しての知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来る言語能力と知識を習得する。

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Animals are Moral Beings
2. Animals are Moral Beings
3. Obscenity and the Public Eye
4. Obscenity and the Public Eye
5. Pushing Free Trade
6. Pushing Free Trade
7. Lindows vs. Windows
8. Lindows vs. Windows
9. Female Students Dog-tired
10. Female Students Dog-tired
11. Dad's Lack of Parenting
12. Dad's Lack of Parenting
13. Stopping Spam
14. Stopping Spam
15. 試験

5. 評価方法

- (1) 試験-60%
 - (2) 授業での小テスト-20%
 - (3) 授業での発表やレポート-20%
- なお60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

授業への準備不足のために質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。

英英辞書か英和辞書を携帯すること。

模範解答の揭示及び解説については、オフィスアワー時に個別に行う。

3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書（教科書 1、2）

1. Tabuki・Long：Reflections on Social and Environmental Issues (Seibido)
2. Osamu Yamaguchi：Listening Pointer for the TOEIC Test (Seibido)

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目

総合英語 B I Comprehensive English B I

機械知能工学科・電気工学科・物質工学科 1 年次 前学期

必修 1 単位

担当教員 虹林 慶

1. 概要

本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生としてのリーディングの目標を定めている。

2. キーワード

国際性、異文化理解、科学、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

本授業では、大学での英語教育という観点から、大学生として必要な英語読解能力の習得を、「世界のトップレベルの文献を、自助努力をもって読破可能なこと」と位置付け、難解なテキストに取り組んでいく。また同時にリスニング能力については、基本的な技能を確認しながら、比較的短いものを繰り返し聞くことで、全般的能力の向上を目指す。大学生としてのレベルでは、このテキストを自分で読みこなすことができれば、必要充分である。到達目標を具体的に示すことで、学生の自主学習に置いて道標となれば幸いである。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Thinks ... by David Lodge (1)
3. Thinks ... by David Lodge (2)
4. Locked in Place by David E. Levy (1)
5. Locked in Place by David E. Levy (2)
6. Locked in Place by David E. Levy (3)
7. Why the Mind is in the Head by Erich Harth (1)
8. Why the Mind is in the Head by Erich Harth (2)
9. Why the Mind is in the Head by Erich Harth (3)
10. Frankenstein (1)
11. Frankenstein (2)
12. Of Headless Mice ... and Men by Charles Krauthammer
13. The Sighing by Stephen Dixon (1)
14. The Sighing by Stephen Dixon (1)
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験70%、小テスト30%。積極的な発表などの参加点を考慮することもある。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・ 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・ 成績評価のフィードバックは模範解答の揭示、開示で行う。個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。適時指示する。
- ・ 授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。逆に積極的な発表などは評価する。難解なテキストのため、充分な予習、復習を必須とする。

7. 教科書・参考書

教科書：PRISM（研究社）

Tune in the TOEIC Test（マクミラン・ランゲージハウス）

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

電子辞書（英語専用モデル。とくに英語活用辞典つき）はお勧めできます。

8. オフィスアワー等

月曜日 4 限（14:30～16:00）

（共通講座棟 3 階：S302）

総合英語 B I Comprehensive English B I

機械知能工学科、建設社会工学科、電気工学科 1 年次 前学期

必修 1 単位

担当教員 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを感ずるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。ジャンルの最終回には、ライティングにも挑戦する。

2. キーワード

多読英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

手段としての英語を発見し、自分の必要に応じて情報を獲得、楽しめるようになることを目指す。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. 歌詞の英語 I
3. 歌詞の英語 II
4. 歌詞を書く III
5. 歌詞を発表する IV
6. 新聞・雑誌の英語 I
7. 新聞・雑誌の英語 II
8. 記事を書く III
9. 記事を発表する IV
10. TV・映画の英語 I
11. TV・映画の英語 II
12. シナリオを書く III
13. シナリオを発表する IV
14. その他のジャンル
15. 総評

5. 評価方法・基準

平常点（70%）期末レポート（30%）

60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

辞書を持参すること

3分の2以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意

成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること

7. 教科書・参考書

プリントを配布する

辞書

8. オフィスアワー等

火曜日 4 時限目

Eメールで面接予約を取れば、上記時間以外も可

研究室： 共通教育研究棟 S412（hatcho@dhs.kyutech.ac.jp）

総合英語C Comprehensive English C

機械知能工学科 1 年次 前学期 必修 1 単位

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

海外旅行、留学生との交流、留学、国際学会での発表など、英語を話す機会の多い現代にあって、英語で自分の意思を伝えたり、相手を説得する、といったコミュニケーション能力は必要である。コミュニケーション能力といっても、大事なのは英語力ばかりではない。実際のコミュニケーションにおいては、自分の意思をどのように伝えるか、というプレゼンテーション能力が鍵を握っていることが多いからである。本授業では、英語で自分の意見を効果的に伝えるための方法を段階的に学習することで、プレゼンテーション能力を養う。また、リスニングの練習も合わせて行なう。

2. キーワード

プレゼンテーション、コミュニケーション

3. 到達目標

効果的なプレゼンテーション方法を踏まえた上で、プレゼンテーションを実践する。

4. 授業計画

1. Enhancing Eye Contact
2. Adding Gestures
3. Using Your Voice Effectively
4. Organizing Information
5. Supporting Ideas
6. Generation Enthusiasm
7. Ending with a Bang
8. 小テスト
9. Speaking Impromptu
10. Bring It All Together
11. プレゼンテーション
12. プレゼンテーション
13. プレゼンテーション
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーションの評価

5. 評価方法・基準

原則として、小テスト25%、活動参加25%、プレゼンテーション50%とする。総合評価で60点以上を合格とする。プレゼンテーションを目的とした授業なので、毎回全員に積極的な活動参加を求める。

6. 履修上の注意事項

全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。
成績評価のフィードバックはオフィスアワーで対応する。
積極的に授業活動に参加すること。

7. 教科書

Kate Elwood, The Way to Effective Speaking. (南雲堂)
行時潔, Daniel Droukis. Experience an English Program!
(松柏社)

8. オフィスアワー等

火曜日 5 限

(教官室：共通教育棟3階S305)

総合英語C Comprehensive English C

建設社会工学科、物質工学科 1 年次 前学期 必修 1 単位

担当教員 村田 忠男

1. 概要

高校までに不十分な修得のままである英語発音の再訓練を全体の一貫した柱とし、それに毎回並行して、多様な英語マスメディアや英語情報への関心を引き起こすことを目指す。ニュース・スタイルの英語を聞き取る方法についても後半では導入する。

2. キーワード

国際英語、発音、聞き取り法、

3. 到達目標

英語マスメディアやIT英語情報利用の基本となる英語力獲得を目指し、高校までの基礎英語力をさらに向上させたい。

4. 授業計画

1. 国際英語 (1)
2. 国際英語 (2)
3. 発音記号：母音の発音法 I
4. 発音記号：母音の発音法 II
5. 発音記号：子音の発音法 (破裂音 I)
6. 発音記号：子音の発音法 (破裂音 II)
7. 発音記号：子音の発音法 (摩擦音 I)
8. 発音記号：子音の発音法 (摩擦音 II)
9. 発音記号：子音の発音法 (破裂音)
10. 発音記号：子音の発音法 (鼻音、接音)
11. 連結発音 I
12. 連結発音 II
13. ニュース英語の聞き取り I
14. ニュース英語の聞き取り II
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を50%、期末試験を50%とする。
活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。
特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書（教科書：1、2）

1. 村田忠男、田端敏幸：「新版」カプセル英語発音（三修社）
2. 村田忠男、田端敏幸、Braven Smillie：「新版」カプセル・ニュース英語を聴く（三修社）

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30-4：00 と水曜 1：00-2：30。

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

総合英語C Comprehensive English C

物質工学科 1年 前学期 必修 1単位

担当教員 田吹 昌俊

1. 目的

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehensionの訓練も行う。題材としては21世紀に成功した企業の秘訣や裏話を扱う。

2. キーワード

企業、経済、国際化

3. 到達目標

英語を通じビジネスや新製品や戦略に関する知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来るレベルに到達する。

4. 授業計画

半期15回の講義の中、8割をreadingに、残りの2割をlistening comprehensionに当てる。主要テキストで扱う内容は下記に示す。

1. オリエンテーション
2. Kewpie
3. Kewpie
4. Shimadzu
5. Shimadzu
6. Mitsuoka Motors
7. Wacoal
8. Yairi Guitar
9. KGS
10. Sanwa Shurui
11. Kao
12. Kyocera
13. Sanrio
14. Mos Food Services
15. 試験

5. 評価方法

- (1) 学期試験-60%
 - (2) 授業での小テスト-20%
 - (3) 授業での発表やレポート-20%
- 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業への準備不足のために質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。

英英辞書か英和辞書を携帯すること。

模範解答の掲示及び解説については、オフィスアワー時に個別に行う。

3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書(教科書1、2)

1. Brenda Hayashi: Front-runners in the 21st Century (松柏社)
2. S. Eguma: Listening Navigator for the TOEIC Test (成美堂)

8. オフィスアワー等

木曜日4時限目

総合英語C Comprehensive English C

機械知能工学科・物質工学科 1年次 前学期 必修 1単位

担当教員 虹林 慶

1. 概要

英語による情報をすばやく読み取り、整理する能力を身につけるために、時事英語の速読を行う。比較的容易な内容のテキストについて、4技能を使った総合的理解を主眼とした授業である。また、あわせて英語圏文化を紹介したテキストを暗記する事も試みる。

2. キーワード

時事英語、速読、異文化

3. 到達目標

インターネットなどの英語ニュースを自分の力で大意をすばやくつかむ事ができることを目標とする。授業でしっかりと練習をし、最後にはインターネットを用いた実践を試みたい。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Billionaires / Andre Agassi
3. Video Jockeys / Coffee Culture
4. Around the World / The Puffer Fish
5. Getting Married / Say It with Flowers
6. Bollywood / The Nobel Prize
7. Review Test 1
8. A Funny Cure / Palm Reading
9. Amazing Memory / Incredible Dogs
10. Diamonds / Space Explorers
11. Happy New Year! / Text Messaging
12. Urban Legends / Extreme Sports
13. Review Test 2
14. Summary

5. 評価方法・基準

定期試験50%、小テスト50%。積極的な発表などの参加点を考慮することもある。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックは模範解答の掲示、開示で行う。個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。適時指示する。
- ・授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。逆に積極的な発表などは、評価したい。十分な予習、復習を必須とする。

7. 教科書・参考書

教科書:

Intermediate Faster Reading (成美堂)

A Shorter Course in Easy English Poems (南雲堂)

参考書: 新版研究社英和中辞典 (辞書を持たない人に)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

電子辞書 (英語専用モデル。とくに英語活用辞典つき) はお勧めできます。

8. オフィスアワー等

月曜日4限 (14:30~16:00)

(共通講座棟3階:S302)

総合英語 C Comprehensive English C

物質工学科 1 年次 前学期 必修 1 単位

担当教員 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、英字新聞を材料に様々な英文の特徴を分析し、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。学期の最後には、グループで各スタイルを取り入れた英字新聞を作成する。

2. キーワード

新聞 英文スタイル 作文

3. 到達目標

スタイルを踏まえた英文らしい英文を書けるようになることを目指す。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. 一般記事 特徴分析
3. 一般記事 特徴確認と執筆
4. 一般記事 発表と評価
5. 一般記事 校正
6. 文芸評論 特徴分析
7. 文芸評論 特徴確認と執筆
8. 文芸評論 発表と評価
9. 文芸評論 校正
10. オピニオン 特徴分析
11. オピニオン 特徴確認と執筆
12. オピニオン 発表と評価
13. オピニオン 校正
14. 新聞作成
15. 新聞発表

5. 評価方法・基準

平常点（70%）新聞作成（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。

三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。

成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する
辞書

8. オフィスアワー等

火曜日 4 時間目

Eメールで面接予約を取れば、上記時間以外も可

研究室： 共通教育研究棟 S412 (hatcho@dhs.kyutech.ac.jp)

総合英語 C Comprehensive English C

建設社会工学科 1 年次 必修 前学期 1 単位

担当教員 樋口 允子

1. 概要

情報技術の発達とともに急速な国際化を進めている現代社会では、就職、転職、昇進などさまざまな機会に「使える英語力」が求められている。中学校以来学習してきた英語の知識（基本文法事項）を基に語彙を増やし、Listening と Reading 両面から英語の運用力を発展させる必要がある。この授業では、実際の英語の場面を再現した「真に英語を駆使する状況」で出くわすビジネスニュースや会話の聞き取り練習をし、オフィスメモ、Web 上の宣伝文やニュース記事などを読み取る力をつけ、総合的な英語能力の向上をはかる。

2. キーワード

3. 到達目標

4. 授業計画

1. オリエンテーション / Computers and Society (Listening)
2. Computers and Society (Reading)
3. Business Transaction (Listening)
4. Business Transaction (Reading)
5. Cars and Society (Listening)
6. Cars and Society (Reading)
7. Eating and Drinking (Listening)
8. Eating and Drinking (Reading)
9. Shopping (Listening)
10. Shopping (Reading)
11. Entertainment (Listening)
12. Entertainment (Reading)
13. Accidents & Crimes (Listening)
14. Accidents & Crimes (Reading)
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、授業参加度（①授業での発表 ②提出物 ③小テスト）（30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

3 分の 2 以上の全体出席数がないと履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示して行う。掲示時期や場所については、適時連絡する。

また、個別の成績相談については、以下のメールアドレスで連絡をとること。

辞書を必ず持参すること。

7. 教科書・参考書

石井隆之他、Total Strategy for the TOEIC Test（成美堂）

8. オフィスアワー等

ty-hgc@u01.gate01.com

総合英語C Comprehensive English C

機械知能工学科 1年次 前学期 必修 1単位

担当教員 定行 あし江

1. 概要

TOEICに慣れ、簡単なインターネットの記事の英語が理解できる程度の、日常英語を理解する能力を身につけることをめざす。

2. キーワード

3. 到達目標

4. 授業計画

1. イントロダクション。辞書の使い方、CDを聞く場合の注意事項、インターネットの記事を読む場合の注意事項について説明する。
2. Lesson 1 飛行機に乗る際の注意事項を確認する。
3. Lesson 2 ホテルに泊まる際の注意事項を確認する。
4. Lesson 3 新製品が売り出される時の注意事項を確認する。
5. Lesson 4 風邪を引いた時の注意事項を確認する。
6. Lesson 5 薬を処方してもらう時の注意事項を確認する。
7. Lesson 6 広告キャンペーンを読むときの注意事項を確認する。
8. Review Test 1 Lesson 1～Lesson 3 の復習をする。
9. Review Test 2 Lesson 4～Lesson 6 の復習をする。
10. Lesson 7 偶然知人と再会したときの注意事項を確認する。
11. Lesson 8 就職の面接の際の注意事項を確認する。
12. Lesson 9 苦情の申し立てについて学習する。
13. Lesson 10 新しいオフィスについての話を学習する。
14. Review Test 3 Lesson 7～Lesson 10の復習をする。
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験50%、レポートなどの課題30%、小テスト20%。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

3分の2以上の出席数が無いと、履修資格を失う。成績のフィードバックは模範解答を掲示し行う。掲示時期や場所については、適時連絡する。

7. 教科書・参考書

教科書：Rie Oga & Nancy Pierson-Umezu, Workout for the TOEIC Test Book 2 (Seibido)

参考書：できれば英英辞書を使うこと

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

総合英語C Comprehensive English C

機械知能工学科 1年次 前学期 必修 1単位

担当教員 塩田 弘

1. 概要

英語のパラグラフの構成法を理解し、英文読解と英文作成の能力の育成を図る。特に、考えや感情を英語のパラグラフ構成法に従って表現できることを目標とし、技術者としての英文作成（英語論文等）の基礎的知識を養う。

2. キーワード

パラグラフ・ライティング パラグラフ・リーディング 英作文

3. 到達目標

パラグラフの構成法を踏まえた論理的な英文を書くことを目標とする。

4. 授業計画

毎回の授業で、それぞれのパラグラフ構成法に基づいて書かれた英文を読み、続いて自分の考えや感情を論理的な英語で表現する練習を行う。必要に応じて、ブレインストーミングやプレゼンテーションの練習、または小テストを実施する。

各回の講義では、テキストに即して以下のパラグラフの構成法を中心に学習する。

- 1 パラグラフの書き方
- 2 「例示」
- 3 「手順・過程・方法」
- 4 「比較対照法」
- 5 「理由」
- 6 「分類」
- 7 「定義」
- 8 「見解・意見」
- 9 「時間的順序」
- 10 「空間的順序」
- 11 「因果関係」
- 12 ～13 復習・応用問題
- 14 試験

5. 評価方法

授業の出席状況、授業態度、定期試験の成績で総合的に評価する。

- (1) 学期試験-60%
 - (2) 授業での小テスト・発表・提出物等-40%
- 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

欠席が三分の一を超えないように留意すること。

7. 教科書・参考書

教科書：On Your Way to Paragraph Writing (朝日出版, 1997)

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

E-mail shiota@sings.jp

上級英語 A I Advanced English A I

全学科 2・3・4年次 前学期 選択 1単位

担当教員 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce various sports, and to improve the communicative competence of students about sports and themselves in English.

2. キーワード

Sports, Speaking, Listening, Reading, Writing

3. 到達目標

- To improve the English of students. (Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored) .
- To introduce and discuss the rules of various sports in English.

4. 授業計画

- Self-introductions
- Olympic Games
- Soccer
- Rugby
- American Football
- Field Hockey
- Ice Hockey
- My hometown
- Tennis
- Table Tennis
- Volleyball
- Fencing
- Golf
- Review
- Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- prepare thoroughly for class
 - do writing exercises on your own
- 60点以上を合格とする

6. 履修上の注意項目

3分の2の出席数がないと履修資格を失う

7. 教科書・参考書

教科書: Big Sports of the World, published by Ikubundo (郁文堂)

Note: A different text may be used in the second semester.

参考書: A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 A I Advanced English A I

全学科 2・3・4年次 前学期 選択 1単位

担当教員 ロバート・ロング

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. This course builds on the first year course in which students have had exposure to basic functional English, and sentence-length speech.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes) . Students should make progress in being able to coherently take a position on a social issue, and to make a written and oral statement concerning it. Reviews also aim to improve the student's fluency. Thus, by the completion of the course, students should be at the higher intermediate level.

4. 授業計画

Textbook : Crossing Over I: (Teacher Handouts)

Week 1 : Crazy Fashions the Norm Paired Interviews (Responding to Opinions; making observations)

Week 2 : Marriage Under the Microscope Panel Discussions (Summarizing; reacting; recommending)

Week 4 : Reviews and Quizzes (for chapters 1 - 2)

Week 5 : Wireless Japan Debates

(Accepting, rejecting statements; mediating)

Week 6 : My Grandfather's Binbogami Group Work (Forming a consensus, sharing opinions)

Week 7 : Reviews and Quizzes (for chapters 3 - 4)

Week 8 : E-Commerce Surveying

(Soliciting, noting, Analyzing, Evaluating)

Week 9 : Rap and Hip-Hop Music Paired Interviews (Responding to Opinions; making observations)

Week 10 : Reviews and Quizzes (for chapters 5 - 6)

Week 11 : Children: A Different Breed Panel Discussions (Summarizing; reacting; recommending)

Week 12 : Competitive Sports Debates

(Accepting, rejecting statements; mediating)

Week 13 : Reviews and Quizzes (for chapters 7 - 8)

Week 14 : Women Managers Group Work (Forming a consensus, sharing opinions)

Week 15 : Social Activists Surveying

(Soliciting, noting, Analyzing, Evaluating)

5. 評価方法・基準

Weekly quizzes account for 40% of the grade; chapter assignments count 60%. Points are deducted from incomplete work.

6. 履修上の注意事項

Quizzes are graded in class, checked by other students, and feedback is given on errors afterwards before they are recorded. All work is evaluated by the teacher and recorded on a weekly basis. There is no final exam.

7. 教科書・参考書

Crossing Over: Exploring Japanese Life and Culture through English, Lulu Press by Robert Long (ISBN 1-4116-28039)

Culture Compass Lulu Press by Robert Long (ISBN 1-4116-4484-0)

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00

Tuesday: 10:00 - 5:00

上級英語 B I Advanced English B I

全学科 2・3・4年次 前学期 選択 1単位

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

本授業は、異文化間交流に意欲的な学生に、コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を向上させるための手助けをしようとするものである。毎回、異文化間交流のヒントとなるエッセイを講読し、それについての意見交換を英語で行なう。最終的にはトピックを一つ選び、プレゼンテーションを実践する。

2. キーワード

プレゼンテーション、コミュニケーション、異文化理解

3. 到達目標

異文化間交流についての理解を深め、プレゼンテーション能力を養う。

4. 授業計画（教科書との対応）

1. Learning with a Purpose
2. Speaking Up in Class
3. Information Everywhere!
4. Preparing for a Trip
5. Living in a New Culture
6. Cultural Stereotypes
7. 音読試験
8. Women's Rights
9. No Strings Attached
10. プレゼンテーション
11. プレゼンテーション
12. プレゼンテーション
13. プレゼンテーション
14. プレゼンテーション
15. 評価

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加40%、音読試験10%、プレゼンテーション50%とする。総合評価で60点以上を合格とする。積極的な活動参加を求める。

6. 履修上の注意事項

全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。
成績評価のフィードバックはオフィスアワーで対応する。
積極的に授業活動に参加すること。
受講希望者は、第1回目の授業に必ず出席すること

7. 教科書

Richard McMahon, Presenting Different Opinions. (南雲堂)

8. オフィスアワー等

火曜日 5限

(教官室：共通教育棟3階S305)

上級英語 B I Advanced English B I

全学科 2・3・4年次 前学期 選択 1単位

担当教員 村田 忠男

1. 目的

一貫して、国際体験の実現を目指し、国際感覚の向上をはかる。
豊かな伝統を保ちながらも変動を続けるヨーロッパ（文化）に関する英文エッセイを材料にしつつ、英語による要約や表現力の向上を目指す。教科書は一冊指定するが、追加資料は、こちらで用意する。また、インターネットを利用してヨーロッパ情報を取得し、クラスで情報交換を実施する。受講後は、ヨーロッパに行こうという気になるよう仕向けたい。

2. キーワード

ヨーロッパ文化、インターネット、情報交換

3. 到達目標

1年次までに身につけた英語力をさらに向上させる。一人でヨーロッパを闊歩するための基礎訓練コースとしたい。当然、1年次の英語必修科目を終了した学生を対象とする。

4. 授業計画

1. ヨーロッパ文化とは
2. ヨーロッパのステレオタイプ
3. カルチャーショック
4. イタリアと日本
5. 君主制
6. 美の秘密
7. ファッション
8. 食文化
9. ワイン文化
10. ヨーロッパ製品
11. インターネット情報交換（1）
12. インターネット情報交換（2）
13. インターネット情報交換（3）
14. インターネット情報交換（4）
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を70%、期末試験を30%とする。
活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

ヨーロッパ文化に関心をもつ学生、これから訪問してみたい学生の受講を薦める。英語で情報や意見の交換をできるよう、援助したい。関心のあるトピックを用意しておくことが広い意味でのコミュニケーションを円滑にする。

7. 教科書

Joan McConnell, Appreciating European Culture (成美堂)

8. オフィスアワー等

基本的には月曜2：30-4：00と水曜1：00-2：30。

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jpで、面接予約を事前にとることも可能。

上級英語 B I Advanced English B I

全学科 2・3・4年次 前学期 選択 1単位

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口語英語能力を更に上達させる目的で講義を行う。ここでは様々な題材を使用し、特にディスカッションとプレゼンテーションに重点を置いた講義を行う。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

英語を媒体として様々な時事問題を読んだりディスカッションすることにより個別のテーマについて熟知し、最終的にはプレゼンテーション出来るレベルにまで英語能力を上げる。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルのreading comprehensionとdiscussionに5割程度、またその延長線上にあるpresentationに5割程度の時間を当てる。さらにBeatles' Lyrics等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。

1. 社会ニュース

2. 科学ニュース

3. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価方法

(1) 学期試験---30%

(2) 授業でのディスカッションや小テスト等-30%

(3) Presentation-40%

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書：Mini World 2006-07 (Macmillan Languagehouse)

それ以外の教材は必要に応じて配布する。

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目

上級英語 B I Advanced English B I

全学科 2・3・4年次 前学期 選択 1単位

担当教員 八丁 由比

1. 概要

グローバル化の進む現代において、いかなる分野の専門家を目指そうとも国際社会の変化と無縁ではいられない。時流を見極めるには、十分な情報と判断力が必要である。本授業では、英語を読むという語学学習と、国際・国内問題の理解という二点に重点を置く。現在進行形でおこるニュース記事を分析し、メディアに特徴的な英語を学びながら、国際・国内社会で何が起こっているのか、日本はいかに関わっているか、などについても考える。

2. キーワード

国際・国内事情 日本外交 情報検索 情報発信

3. 到達目標

メディア英語に慣れ、国際問題について自分の意見を持てるようになることを目指す。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング

2. 英文読解

3. 議論

4. 英文読解

5. 議論

6. 英文読解

7. 議論

8. 英文読解

9. 議論

10. 英文読解

11. 議論

12. 英文読解

13. 議論

14. 英文読解

15. 議論

5. 評価方法・基準

平常点 (70%) 期末レポート (30%)

60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

英文サマリーや調査報告などのレポート提出を毎週義務付ける。コツコツと英語力を伸ばしたい学生を歓迎する。

三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。

成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること

7. 教科書・参考書

プリントを配布する

辞書

8. オフィスアワー等

火曜日 4 時間目

Eメールで面接予約を取れば、上記時間以外も可

研究室： 共通教育研究棟 S412 (hatcho@dhs.kyutech.ac.jp)

上級英語 C I Advanced English C I

全学科 3・4年次 前学期 選択 1単位
担当教員 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。
具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づく
ディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文など
である。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション
能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

海外留学などを想定して、そのような状況下においてもきちんと
自分の意見が示せることが出来るようになることが目標であ
る。単に英語学習にとどまらず、それに必然的に結びつく批判的
思考なども学ぶことを目指す。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Adventure
3. Crime
4. Culture Clash
5. Ecology
6. Freedom
7. Review Test 1
9. Globalisation
10. Horror
11. Language
12. London Life
13. Love
14. Review Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験60%、平常点40%。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・ 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・ 成績評価のフィードバックは個別にオフィスアワーにて行う。

7. 教科書・参考書

教科書：Ideas and Issues: Upper-Intermediate（マクミラン・
ランゲージハウス）

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に興味があ
る人に）

電子辞書（英語専用モデル。とくに英語活用辞典つき）はお勧
めできます。

8. オフィスアワー等

月曜日4限（14:30～16:00）
（共通講座棟3階：S302）

技術英語 I Technical English I

全学科 3・4年次 前学期 選択 1単位
担当教員 ロバート・ロング

1. 概要

This course is aimed for second and third year university
students. The purpose of this course is to develop students'
speaking and writing abilities for specific speaking skills
(functions) that all engineers (mechanical, material, chemical
and electrical) will need to use.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development,
civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering,
materials, general issues

3. 到達目標

Because the course offers 5 integrated reviews for each skill
level, students should be able to master the vocabulary and
content. The reviews are conducted weekly so that over a
period of time, students are able to truly understand the
material. The skills that are addressed are applicable to all
areas of engineering.

4. 授業計画

Schedule Topic Areas Functions

Mechanical Engineering

Week 1	Disc Brakes Hydraulics Ask / answer questions Explain process / functions Summarize
Week 2	Washing Machines Automatic systems Ask / answer questions Explain process / functions Summarize
Week 3	Maglev Train Electric machines Ask / answer questions Explain process / functions Summarize
Week 4	Racing bikes Gear systems Ask / answer questions Explain process / functions Summarize
Week 5	Lasers Laser technology Asking / answer questions Explain process / functions Summarize
Week 6	Electric Motor Electric machines Asking / answer questions Explain process / functions Summarize Chemical Engineering
Week 7	Metals Composition: properties Identify properties Describe uses Compare / contrast
Week 8	Plastics Classification Identify properties Describe uses Compare / contrast Civil Engineering
Week 9	Ventilation Provide background Compare / contrast Identify advantages
Week 10	Pollution Control Provide background Compare / contrast Identify advantages
Week 11	Sewage / Water systems Provide background Compare / contrast Identify advantages General Issues
Week 12	Safety Issues Review safety procedures Safety reporting Safety guidelines / rules
Week 13	Waste recycling Provide background Compare / contrast Classify material
Week 14	Inventions Identify problems Suggest possible solutions Outline / describe changes
Week 15	Exam

5. 評価方法・基準

Satisfactory attendance is required as there is a participation grade (3 points for each class, for a total of 42%) . Students' effort in the class is also evaluated and given 48% of the class credit. The effort grade will be evaluated by the student's reports, presentations, participation, etc. Course work will be set and graded, and also two oral / written examinations, one at the end of each semester, each counting 10%. Quizzes may also be given. Students will be given feedback in the form of written comments on their work, with specific instructions on how to improve.

6. 履修上の注意事項

This is an elective course. The aim is to achieve a high level of fluency in spoken and written English, which will help students in their future lives and careers. Students must be prepared to work hard in order to make real progress.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix: Using Technical English I Lulu Press

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00

Tuesday: 10:00 - 5:00

総合英語 A II Comprehensive English A II

全学科 1 年次 後学期 必修 1 単位

担当教員 Ian Ruxton, Robert Long, Adam Stott,
Mark Gibson, Bruce Haendel, Chris O'Sullivan,
Michael Mackay, Gareth Steele, Raymond Stubbe

1. 概要

- ・授業の背景 Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world.
- ・授業の目的 The main aim is to teach students to speak and understand spoken English.
- ・授業の位置付け Our course is the only one taught by native speakers.

2. キーワード

speaking, listening, writing, communication, culture

3. 到達目標

- To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- To practice the writing of English paragraphs and compositions
- To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures

4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Test

5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

Wednesday students will be sorted into classes based on performance in a placement test at the beginning of the year.

出席が3分の2以上ないと履修資格を失う。(工学部学修細則第8条2)

絶対一年生の間この単位を取ってください！！

7. 教科書・参考書

- (1) Marc Helgesen, et al. : New English Firsthand (Lingual House)
- (2) Instructors may use other approved textbooks at their discretion.
- (3) A monolingual (English - English) dictionary is strongly recommended.

8. オフィスアワー等

Wednesdays, 12-2.30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 B II Comprehensive English B II

機械知能工学科・電気工学科・物質工学科 1 年次 後学期

必修 1 単位

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

前期で習得したパラグラフ・リーディングの方法を用い、より長く難易度の高い英文エッセイを講読する。具体的には、英字新聞・雑誌の記事を題材にパラグラフ・リーディングの実践をする。合わせて、リスニングや音読、語彙の暗記等の活動も取り入れる。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、英字新聞・雑誌、語彙

3. 到達目標

英字新聞・雑誌の記事をパラグラフ・リーディング出来るようになる。

4. 授業計画（教科書との対応）

1. オリエンテーション
2. Penguin Decline Due to Global Warming?
3. Europe Takes Aim at Junk Food Ads
4. Fuel Motorbike to Hit U.S. Streets
5. Not the Queen's English
6. The Deadliest Cancer
7. Game Maker Sees Convergence with TV Fiction
8. 中間試験
9. Study Finds Winning Weight-Loss Strategies
10. Working Wounded: The Art of Meetings
11. Building a Virtual Microbe, Gene by Gene by Gene
12. Energy, Imagination and Emotion at Paris Haute Couture
13. The Free Toaster? Today, It's an iPod
14. 音読試験
15. 期末試験

5. 単位認定基準

原則として、中間試験25%、期末試験25%、音読試験10%、単語テスト20%、活動参加20%とする。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。
成績評価のフィードバックはオフィスアワーで対応する。
積極的に授業活動に参加すること。

7. 教科書

Katsuyuki Morita, Reading Solutions: How to Develop your Vocabulary. (金星堂)

8. オフィスアワー等

火曜日 5 限

(教官室：共通教育棟 3 階 S305)

総合英語 B II Comprehensive English B II

建設社会工学科、電気工学科、物質工学科 1 年次 後学期

必修 1 単位

担当教員 村田 忠男

1. 概要

前期での英語発音の再訓練後、後期は英語ニュースの聞き取り法を毎回、少しずつ訓練し、並行して朝日英語年鑑の「経済産業」に関連する分野の英語力、語彙力を高める。

2. キーワード

国際英語、聞き取り法、経済、産業

3. 到達目標

英語マスメディアやIT英語情報を利用できる英語力獲得を目指し、高校までの基礎英語力をさらに向上させたい

4. 授業計画

1. 放送英語の聞き取り法（冠詞）
2. 放送英語の聞き取り法（代名詞）
3. 放送英語の聞き取り法（前置詞）
4. 放送英語の聞き取り法（助動詞・接続詞）
5. 放送英語の聞き取り法（リズムによる短縮）
6. 放送英語の聞き取り法（母音弱化）
7. 放送英語の聞き取り法（リエゾン）
8. 放送英語の聞き取り法（語中のt）
9. 放送英語の聞き取り法（音声同化）
10. 朝日英語年鑑（経済1）
11. 朝日英語年鑑（経済2）
12. 朝日英語年鑑（産業1）
13. 朝日英語年鑑（産業2）
14. 朝日英語年鑑（産業3）
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を50%、期末試験を50%とする。
活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。
特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書（教科書：1－2、参考書：3）

1. 村田忠男、田端敏幸、Braven Smillie:「新版」カプセル・ニュース英語を聴く（三修社）
2. 朝日新聞ジャパン・アルマニャック2006（朝日新聞社）
3. 智恵蔵 2006（朝日新聞社）

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30-4：00 と水曜 1：00-2：30。

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

総合英語 B II Comprehensive English B II

機械知能工学科・電気工学科・物質工学科 1 年次 後学期

必修 1 単位

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

英語を通じ環境や社会問題に関しての知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来る言語能力と知識を習得する。

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Kazaa and Music Piracy
2. Kazaa and Music Piracy
3. Are We Grown up Yet?
4. Are We Grown up Yet?
5. Systems is Washing Ph.D Brainpower
6. Systems is Washing Ph.D Brainpower
7. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
8. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
9. Key Ocean Fish Species Disappearing
10. Key Ocean Fish Species Disappearing
11. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
12. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
13. Crazy Spoiled Youth
14. Crazy Spoiled Youth
15. 試験

5. 評価方法

- (1) 試験-60%
 - (2) 授業での小テスト-20%
 - (3) 授業での発表やレポート-20%
- なお60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

授業への準備不足のために質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。

英英辞書か英和辞書を携帯すること。

模範解答の掲示及び解説については、オフィスアワー時に個別に行う。

3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書 (教科書 1、2)

1. Tabuki・Long: Reflections on Social and Environmental Issues (Seibido)
2. Osamu Yamaguchi: Listening Pointer for the TOEIC Test (Seibido)

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目

総合英語 B II Comprehensive English B II

機械知能工学科・電気工学科・物質工学科 1 年次 後学期

必修 1 単位

担当教員 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生としてのリーディングの目標を定めている。

2. キーワード

国際性、異文化理解、科学、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

本授業では、大学での英語教育という観点から、大学生として必要な英語読解能力の習得を、「世界のトップレベルの文献を、自助努力をもって読破可能なこと」と位置付け、難解なテキストに取り組んでいく。また同時にリスニング能力については、基本的な技能を確認しながら、比較的短いものを繰り返し聞くことで、全般的な能力の向上を目指す。大学生としてのレベルでは、このテキストを自分で読みこなすことができれば、必要充分である。到達目標を具体的に示すことで、学生の自主学習に置いても道標となれば幸いである。

4. 授業計画

1. The Art of Loving by Erich Fromm (1)
2. The Art of Loving by Erich Fromm (2)
3. The Art of Loving by Erich Fromm (3)
4. The Science of Love by Nuna Alberts (1)
5. The Science of Love by Nuna Alberts (2)
6. The Science of Love by Nuna Alberts (3)
7. The Nightingale and the Rose by Oscar Wilde (1)
8. The Nightingale and the Rose by Oscar Wilde (2)
9. Gender Signals by Desmond Morris (1)
10. Gender Signals by Desmond Morris (2)
11. The Gay Side of Nature by Jeffrey Kluger (1)
12. The Gay Side of Nature by Jeffrey Kluger (2)
13. Herland (1)
14. Herland (2)
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験70%、小テスト30%。積極的な発表などの参加点を考慮することもある。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・ 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・ 成績評価のフィードバックは模範解答の掲示、開示で行う。個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。適時指示する。
- ・ 授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。逆に積極的な発表などは評価する。難解なテキストのため、十分な予習、復習を必須とする。

7. 教科書・参考書

教科書: PRISM (研究社)

リスニングについては適時指示する。

参考書: 新版研究社英和辞典 (辞書を持たない人に)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

電子辞書 (英語専用モデル。とくに英語活用辞典つき) はお勧めできます。

8. オフィスアワー等

月曜日 4 限 (14:30~16:00)

(共通講座棟 3 階: S302)

総合英語 B II Comprehensive English B II

機械知能工学科、建設社会工学科、電気工学科 1 年次 後学期

必修 1 単位

担当教員 八丁 由比

1. 概要

前期に引き続いて、多種多分野の英語に触れることを目的とし、英語の利用法・活用法を学ぶ。前期に提出したレポートをもとに学生が発表を行い、英文の内容を理解するとともに、発表の仕方や質問、評価の仕方なども学ぶ。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

自分の言いたいことを人前で十分に伝えられるようになることを目指す。

4. 授業計画

1. デモンストレーション
2. 発表と評価
3. 発表と評価
4. 発表と評価
5. 発表と評価
6. 発表と評価
7. 発表と評価
8. 発表と評価
9. 発表と評価
10. 発表と評価
11. 発表と評価
12. 発表と評価
13. 発表と評価
14. 発表と評価
15. 総評

5. 評価方法・基準

平常点（70%）発表（30%）

60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

辞書を持参すること

三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意

成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること

7. 教科書・参考書

プリントを配布する

辞書

8. オフィスアワー等

火曜日 4 時間目

Eメールで面接予約を取れば、上記時間以外も可

研究室：共通教育研究棟 S412 (hatcho@dhs.kyutech.ac.jp)

総合英語 C Comprehensive English C

電気工学科 1 年次 後学期 必修 1 単位

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

海外旅行、留学生との交流、留学、国際学会での発表など、英語を話す機会の多い現代にあって、英語で自分の意思を伝えたり、相手を説得する、といったコミュニケーション能力は必要である。コミュニケーション能力といっても、大事なのは英語力ばかりではない。実際のコミュニケーションにおいては、自分の意思をどのように伝えるか、というプレゼンテーション能力が鍵を握っていることが多いからである。本授業では、英語で自分の意見を効果的に伝えるための方法を段階的に学習することで、プレゼンテーション能力を養う。また、リスニングの練習も合わせて行なう。

2. キーワード

プレゼンテーション、コミュニケーション

3. 到達目標

効果的なプレゼンテーション方法を踏まえた上で、プレゼンテーションを実践する。

4. 授業計画（教科書との対応）

1. Enhancing Eye Contact
2. Adding Gestures
3. Using Your voice Effectively
4. Organizing Information
5. Supporting Ideas
6. Generation Enthusiasm
7. Ending With a Bang
8. 小テスト
9. Speaking Impromptu
10. Bring It All Together
11. プレゼンテーション
12. プレゼンテーション
13. プレゼンテーション
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーションの評価

5. 単位認定基準

原則として、小テスト25%、活動参加25%、プレゼンテーション50%とする。総合評価で60点以上を合格とする。プレゼンテーションを目的とした授業なので、毎回全員に積極的な活動参加を求める。

6. 履修上の注意事項

全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。

成績評価のフィードバックはオフィスアワーで対応する。

積極的に授業活動に参加すること。

7. 教科書

Kate Elwood, The Way to Effective Speaking. (南雲堂)

行時潔, Daniel Droukis. Experience an English Program!

(松柏社)

8. オフィスアワー等

火曜日 5 限

(教官室：共通教育棟 3 階 S305)

総合英語C Comprehensive English C

電気工学科 1年次 後学期 必修 1単位

担当教員 田吹 昌俊

1. 目的

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehensionの訓練も行う。題材としては21世紀に成功した企業の秘訣や裏話を扱う。

2. キーワード

企業、経済、国際化

3. 到達目標

英語を通じビジネスや新製品や戦略に関する知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来るレベルに到達する。

4. 授業計画

半期15回の講義の中、8割をreadingに、残りの2割をlistening comprehensionに当てる。主要テキストで扱う内容は下記に示す。

1. オリエンテーション
2. Kewpie
3. Kewpie
4. Shimadzu
5. Shimadzu
6. Mitsuoka Motors
7. Wacoal
8. Yairi Guitar
9. KGS
10. Sanwa Shurui
11. Kao
12. Kyocera
13. Sanrio
14. Mos Food Services
15. 試験

5. 評価方法

- (1) 学期試験 -60%
 - (2) 授業での小テスト -20%
 - (3) 授業での発表やレポート -20%
- 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業への準備不足のために質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。

英英辞書か英和辞書を携帯すること。

模範解答の掲示及び解説については、オフィスアワー時に個別に行う。

3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書(教科書1、2)

1. Brenda Hayashi: Front-runners in the 21st Century (松柏社)
2. S. Eguma: Listening Navigator for the TOEIC Test (成美堂)

8. オフィスアワー等

木曜日4時限目

総合英語C Comprehensive English C

電気工学科 1年次 必修 後学期 1単位

担当教員 樋口 允子

1. 概要

情報技術の発達とともに急速な国際化を進めている現代社会では、就職、転職、昇進などさまざまな機会に「使える英語力」が求められている。中学校以来学習してきた英語の知識(基本文法事項)を基に語彙を増やし、ListeningとReading両面から英語の運用力を発展させる必要がある。この授業では、実際の英語の場面を再現した「真に英語を駆使する状況」で出くわすビジネスニュースや会話の聞き取り練習をし、オフィスメモ、Web上の宣伝文やニュース記事などを読み取る力をつけ、総合的な英語能力の向上をはかる。

2. キーワード

3. 到達目標

4. 授業計画

1. オリエンテーション / Computers and Society (Listening)
2. Computers and Society (Reading)
3. Business Transaction (Listening)
4. Business Transaction (Reading)
5. Cars and Society (Listening)
6. Cars and Society (Reading)
7. Eating and Drinking (Listening)
8. Eating and Drinking (Reading)
9. Shopping (Listening)
10. Shopping (Reading)
11. Entertainment (Listening)
12. Entertainment (Reading)
13. Accidents & Crimes (Listening)
14. Accidents & Crimes (Reading)
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験(70%)、授業参加度(①授業での発表 ②提出物 ③小テスト)(30%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

3分の2以上の全体出席数がないと履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示して行う。掲示時期や場所については、適時連絡する。

また、個別の成績相談については、以下のメールアドレスで連絡をとること。

辞書を必ず持参すること。

7. 教科書・参考書

石井隆之他、Total Strategy for the TOEIC Test (成美堂)

8. オフィスアワー等

ty-hgc@u01.gate01.com

総合英語C Comprehensive English C

電気工学科 1年次 後学期 必修 1単位

担当教員 定行 あし江

1. 概要

TOEICに慣れ、簡単なインターネットの記事の英語が理解できる程度の、日常英語を理解する能力を身につけることをめざす。

2. キーワード

3. 到達目標

4. 授業計画

1. イントロダクション。辞書の使い方、CDを聞く場合の注意事項、インターネットの記事を読む場合の注意事項について説明する。
2. Lesson 1 飛行機に乗る際の注意事項を確認する。
3. Lesson 2 ホテルに泊まる際の注意事項を確認する。
4. Lesson 3 新製品が売り出される時の注意事項を確認する。
5. Lesson 4 風邪を引いた時の注意事項を確認する。
6. Lesson 5 薬を処方してもらう時の注意事項を確認する。
7. Lesson 6 広告キャンペーンを読むときの注意事項を確認する。
8. Review Test 1 Lesson 1～Lesson 3 の復習をする。
9. Review Test 2 Lesson 4～Lesson 6 の復習をする。
10. Lesson 7 偶然知人と再会したときの注意事項を確認する。
11. Lesson 8 就職の面接の際の注意事項を確認する。
12. Lesson 9 苦情の申し立てについて学習する。
13. Lesson 10 新しいオフィスについての話を学習する。
14. Review Test 3 Lesson 7～Lesson 10の復習をする。
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験50%、レポートなどの課題30%、小テスト20%。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

3分の2以上の出席数が無いと、履修資格を失う。成績のフィードバックは模範解答を掲示し行う。掲示時期や場所については、適時連絡する。

7. 教科書・参考書

教科書：Rie Oga & Nancy Pierson-Umezu, Workout for the TOEIC Test Book 2 (Seibido)

参考書：できれば英英辞書を使うこと

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

総合英語C Comprehensive English C

電気工学科 1年次 後学期 必修 1単位

担当教員 塩田 弘

1. 概要

英語のパラグラフの構成法を理解し、英文読解と英文作成の能力の育成を図る。特に、考えや感情を英語のパラグラフ構成法に従って表現できることを目標とし、技術者としての英文作成（英語論文等）の基礎的知識を養う。

2. キーワード

パラグラフ・ライティング パラグラフ・リーディング 英作文

3. 到達目標

パラグラフの構成法を踏まえた論理的な英文を書くことを目標とする。

4. 授業計画

毎回の授業で、それぞれのパラグラフの構成法に基づいて書かれた英文を読み、続いて自分の考えや感情を論理的な英語で表現する練習を行う。必要に応じて、ブレインストーミングやプレゼンテーションの練習、または小テストを実施する。

各回の講義では、テキストに即して、以下のパラグラフの構成法を中心に学習する。

- 1 Conclusions/Reasons
- 2 Analysis
- 3 Theory/proof
- 4 Controversy
- 5 Comparison/Contrast
- 6 Classification
- 7 Instructions
- 8 Chronological Order
- 9 Cause & Effect
- 10 Process
- 11 Explanation
- 12 Definition
- 13 Explanation
- 14 試験

5. 評価方法

授業の出席状況、授業態度、定期試験の成績で総合的に評価する。

- (1) 学期試験-60%
 - (2) 授業での小テスト・発表・提出物等-40%
- 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

欠席が三分の一を超えないように留意すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Skills for Better Writing（南雲堂, 2004）

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

E-mail shiota@sings.jp

上級英語 A II Advanced English A II

全学科 2・3・4年次 後学期 選択 1単位

担当教員 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce various sports, and to improve the communicative competence of students about sports and themselves in English.

2. キーワード

Sports, Speaking, Listening, Reading, Writing

3. 到達目標

- To improve the English of students. (Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored) .
- To introduce and discuss the rules of various sports in English.

4. 授業計画

1. My family
2. Baseball
3. Basketball
4. Boating
5. Track and Field
6. Ice Skating
7. Bowling
8. Boxing
9. Sailing
10. Judo
11. My hobbies
12. My vacation plans
13. Newspapers
14. Review
15. Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- prepare thoroughly for class
- do writing exercises on your own

60点以上を合格とする

6. 履修上の注意項目

3分の2の出席数がないと履修資格を失う

7. 教科書・参考書

教科書: Big Sports of the World, published by Ikubundo (郁文堂)

Note: A different text may be used in the second semester.

参考書: A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

Note: A different text may be used in the second semester.

8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 A II Advanced English A II

全学科 2・3・4年次 後学期 選択 1単位

担当教員 ロバート・ロング

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. This course builds on the first year course in which students have had exposure to basic functional English, and sentence-length speech.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes) . Students should make progress in being able to coherently take a position on a social issue, and to make a written and oral statement concerning it. Reviews also aim to improve the students' fluency. Thus, by the completion of the course, students should be at the higher intermediate level.

4. 授業計画

- Week1-2: Family Discussing and Comparing Families Pair workGrammar: Asking Questions
 Week3-4: Expertise Surveying skills and abilities Survey / Speech Grammar: Conditionals
 Week 5: Discipline Commenting on problems and Solutions Group ReactionGrammar: Too vs. Enough
 Week 6-7: Beautification Your appearances: changes, desires Pair workGrammar: Comparisons with Adjectives
 Week 8-9: Entertainment Discussions based on free time, trends Survey / Speech Grammar: Modals of Possibility
 Week 10: Power Comments on power relationships Group Reaction Grammar: Relative Clauses
 Week 11: Education Your future Career, the issue of tutoring Pair worGrammar: Present Perfect
 Week 12: Environment Global Warming, Wild Fires, Storms Survey / Speec Grammar: Comparative Expressions
 Week 13: Dependence Staying at home, the issue of community Group Reaction Grammar: The Compound Personal Pronoun
 Week 14: Obligation Your parents: Taking care of them Pair worGrammar: Present Continuous
 Week 15: Sports Blood sports: sport or torture Survey / Speech Grammar: Future Time Clauses

5. 評価方法・基準

Weekly quizzes account for 40% of the grade; chapter assignments count 60%. Points are deducted from incomplete work.

6. 履修上の注意事項

Quizzes are graded in class, checked by other students, and feedback is given on errors afterwards before they are recorded. All work is evaluated by the teacher and recorded on a weekly basis. There is no final exam.

7. 教科書・参考書

Crossing Over: Exploring Japanese Life and Culture through English, Lulu Press by Robert Long (ISBN 1-4116-28039)

Culture Compass Lulu Press by Robert Long (ISBN 1-4116-4484-0)

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00

Tuesday: 10:00 - 5:00

上級英語 B II Advanced English B II

全学科 2・3・4年次 後学期 選択 1単位

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

本授業は、異文化間交流を目指す学生に、外国人への英語インタビューという形でその実践を手助けしようとするものである。まず異文化間交流についてのリーディングやリスニング、ディスカッション等の練習をしながら、異文化間交流への理解を深める。そしてそれらの学習内容を踏まえて外国人にインタビューし、その結果を報告する。この授業を、留学生との交流や海外旅行、留学への第一歩として活用して欲しい。

2. キーワード

異文化間交流、実践、インタビュー

3. 到達目標

異文化間交流への理解を深め、外国人へのインタビューを実践する。

4. 授業計画（教科書との対応）

1. オリエンテーション
2. English VS. Englishes
3. Culture Shock
4. Going International?
5. Racism
6. Poverty in the Third World
7. Culture and Imperialism
8. Beliefs
9. Culture and Nature
10. Education
11. インタビュー報告
12. インタビュー報告
13. インタビュー報告
14. インタビュー報告
15. 総括

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加25%、インタビュー報告50%、レポート25%とする。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席が3分の2以上ないと履修資格を失う。成績評価に関する質問はオフィスアワーに受け付ける。外国人への英語インタビューを課する授業なので、異文化間交流の実践を目指す学生に限る。受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席すること。

7. 教科書

Toru Nishimoto, Going International. (三修社)

8. オフィスアワー等

火曜日 5限

(教官室：共通教育棟 3階 S305)

上級英語 B II Advanced English B II

全学科 2・3・4年次 後学期 選択 1単位

担当教員 村田 忠男

1. 目的

一貫して、国際体験の実現を目指し、国際感覚の向上をはかる。豊かな伝統を保ちながらも変動を続けるヨーロッパ（文化）に関する英文エッセイを材料にしつつ、英語による要約や表現力の向上を目指す。教科書は一冊指定するが、追加資料は、こちらで用意する。また、インターネットを利用してヨーロッパ情報を取得し、クラスで情報交換を実施する。受講後は、ヨーロッパに行くという気になるよう仕向けたい。

2. キーワード

ヨーロッパ文化、インターネット、情報交換

3. 到達目標

1年次までに身につけた英語力をさらに向上させる。一人でヨーロッパを闊歩するための基礎訓練コースとしたい。当然、1年次の英語必修科目を終了した学生を対象とする。

4. 授業計画

1. ヨーロッパの女性
2. ヨーロッパの家族
3. ヨーロッパの福祉
4. クリスマス
5. 迷信
6. 個性
7. ヨーロッパの教育
8. 特別行事
9. 新しいヨーロッパ
10. 伝統と新方向
11. ヨーロッパ情報交換（1）
12. ヨーロッパ情報交換（2）
13. ヨーロッパ情報交換（3）
14. ヨーロッパ情報交換（4）
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を70%、期末試験を30%とする。活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

ヨーロッパ文化に関心をもつ学生、これから訪問してみたい学生の受講を薦める。英語で意見の交換をできるよう、援助したい。関心のあるトピックを用意しておくことがコミュニケーションを円滑にする。

7. 教科書

Joan McConnell, Appreciating European Culture（成美堂）

8. オフィスアワー等

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jpで、面接予約を事前にとることも可能。

上級英語 B II Advanced English B II

全学科 2・3・4 年次 後学期 選択 1 単位

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口語英語能力を更に上達させる目的で講義を行う。ここでは様々な題材を使用し、特にディスカッションとプレゼンテーションに重点を置いた講義を行う。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

英語を媒体として様々な時事問題を読んだりディスカッションすることにより個別のテーマについて熟知し、最終的にはプレゼンテーション出来るレベルにまで英語能力を上げる。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 5 割程度、またその延長線上にある presentation に 5 割程度の時間を当てる。さらに Beatles' Lyrics 等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。

1. 社会ニュース

2. 科学ニュース

3. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価方法

(1) 学期試験---30%

(2) 授業でのディスカッションや小テスト等-30%

(3) Presentation-40%

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書：Mini World 2006-07 (Macmillan Languagehouse)

それ以外の教材は必要に応じて配布する。

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目

上級英語 B II Advanced English B II

全学科 2・3・4 年次 後学期 選択 1 単位

担当教員 八丁 由比

1. 概要

グローバル化の進む現代において、いかなる分野の専門家を目指そうとも国際社会の変化と無縁ではいられない。時流を見極めるには、十分な情報と判断力が必要である。本授業では、英語を読むという語学学習と、国際・国内問題の理解という二点に重点を置く。現在進行形でおこるニュース記事を分析し、メディアに特徴的な英語を学びながら、国際・国内社会で何が起こっているのか、日本はいかに関わっているか、などについても考える。ディスカッションの議長は学生が担当し、テーマ設定、議論の進行を行う。

2. キーワード

国際・国内事情 日本外交 情報検索 情報発信

3. 到達目標

メディア英語に慣れ、国際問題について自分の意見を持てるようになることを目指す。

議長担当時には、議論の進め方も学ぶ。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング

2. 情報検索の仕方について

3. 小論文の書き方

4. 英文読解

5. 議論

6. 英文読解

7. 議論

8. 英文読解

9. 議論

10. 英文読解

11. 議論

12. 英文読解

13. 議論

14. 英文読解

15. 議論

5. 評価方法・基準

平常点 (70%) 議長担当 (30%)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

英文サマリーや調査報告などのレポート提出を毎週義務付ける(議長担当週は免除)。

コツコツと英語力を伸ばしたい学生を歓迎する。

三分の二以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。

成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する

辞書

8. オフィスアワー等

火曜日 4 時間目

Eメールで面接予約を取れば、上記時間以外も可

研究室： 共通教育研究棟 S412 (hatcho@dhs.kyutech.ac.jp)

上級英語 C II Advanced English C II

全学科 3・4年次 後学期 選択 1単位

担当教員 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。
具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

海外留学などを想定して、そのような状況下においてもきちんと自分の意見が示せることが出来るようになることが目標である。単に英語学習にとどまらず、それに必然的に結びつく批判的思考なども学ぶことを目指す。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Money
3. Pet or Product?
4. Poverty
5. Relationships
6. School
7. Review Test 1
8. Stereotypes
9. Success
10. Travel
11. Vanity
12. War
13. Review Test 2
14. Final Essay

5. 評価方法・基準

定期試験60%、平常点40%。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・ 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・ 成績評価のフィードバックは個別にオフィスアワーにて行う。

7. 教科書・参考書

教科書：Ideas and Issues: Upper-Intermediate (マクミラン・ランゲージハウス)

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に興味がある人に）

電子辞書（英語専用モデル。とくに英語活用辞典つき）はお勧めできます。

8. オフィスアワー等

月曜日 4限（14:30～16:00）

（共通講座棟 3階：S302）

技術英語 II Technical English II

全学科 3・4年次 後学期 選択 1単位

担当教員 ロバート・ロング

1. 概要

This course is aimed for second and third year university students. The purpose of this course is to develop students' speaking and writing abilities for specific speaking skills (functions) that all engineers (mechanical, material, chemical and electrical) will need to use.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, materials, general issues

3. 到達目標

Because the course offers 5 integrated reviews for each skill level, students should be able to master the vocabulary and content. The reviews are conducted weekly so that over a period of time, students are able to truly understand the material. The skills that are addressed are applicable to all areas of engineering.

4. 授業計画

Schedule Topic Areas Functions

Mechanical Engineering

Week 1 Refrigerators Fluid mechanics Ask / answer questions

Explain process / functions Summarize

Week 2 Portable generator Power generation Ask / answer questions

Explain process / functions Summarize

Week 3 Road breaker Pneumatics Ask / answer questions

Explain process / functions Summarize

Week 4 Solar panels Solar energy Ask / answer questions

Explain process / functions Summarize

Week 5 Gas heaters Automatic systems Asking / answer questions

Explain process / functions Summarize

Week 6 Computers Microchip technology Asking / answer questions

Explain process / functions Summarize

Chemical Engineering

Week 7 Corrosion Composition Identify properties

Describe problems

Compare / contrast

Week 8 Ceramics Identify properties Identify properties

Describe uses

Compare / contrast

Civil Engineering

Week 9 Seismic engineering Design issues Provide background

Compare / contrast

Identify advantages

Week 10 Bionic buildings Material surfaces Provide background

Compare / contrast

Identify advantages

Week 11 Reservoirs Water control Provide background

Compare / contrast

Identify advantages

General Issues

Week 12 Mechanisms Cams / crankshafts Provide background

Compare / contrast

Summarize

Week 13 Forces General Information Provide background

Compare / contrast

Summarize

Week 14 Job Search Resumes / Interviews Copy and adapt

Practice

Making suggestions

Week 15 Exam

5. 評価方法・基準

There is a participation grade (5 points for each class) if students demonstrate that they have completed the in class work. There is also a series of quizzes for each skill area. These quizzes count 10%. The final exam is optional, but counts for 10% of the students' grade.

6. 履修上の注意事項

The format for both quizzes and final exams is that students write in their answers on data scan cards and on paper. After the data cards are collected, the answers are immediately given and discussed in class.

7. 教科書・参考書

Teacher handouts are used exclusively.

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00

Tuesday: 10:00 - 5:00

Wednesday: 4:00 - 5:00

Friday: 10:00 - 3:30

【外国語を学ぶ意義】

1. 言葉の役割

人間は、言葉を用いて考える。質の高い思考をするためには、良質かつ多くの言葉を持つことが不可欠である。言葉による思考は、認識の深化とコミュニケーションの遂行に重要な貢献をする。

2. 母（国）語と外国語

人間の思考は、その人間が習得している母（国）語の思考形式に強く影響される。言葉は文化の形式を規定する、と言える。外国語の習得は、その言語の道具的使用にとどまらず、学習者の文化的思考の枠組みを広げることに寄与する。

3. 英語以外の言語を学ぶ必要性（真の国際性の養成）

現代においては、ともすれば英語のみを学習すれば事足りるよう考えがちである。しかし、英語だけを勉強して事足りると考えることは、日本語による文化的思考の枠組みからは脱却できるかもしれないが、新たに英語による文化的思考の枠組みの中に限定されてしまう。

日本の外の世界は、英語文化圏のみならず、ヨーロッパ文化圏・イスラム文化圏・アジア文化圏など、多種多様な文化圏から成り立っている。英語以外の言語を学び、世界に多様な文化が存在することを知らなければ、現代社会に生きる人間として必要なことであり、また、学生にそうした機会を提供することが世界全体の文化の普遍的な発展を目指すものとして大学に課せられた使命であり、真の国際性の養成にも通ずる。

4. ドイツ語を学ぶ意義

(1) 現代社会の基礎創成を担った言語であること

九工大の学生たちは、17世紀ごろから始まった西欧近代合理主義にその源を持つ西欧近代科学技術を学んでいる。この西欧近代合理主義とあるときは育み、あるときは敵対することによってその発展に寄与してきたのは、主としてイギリス・ドイツ・フランス、後にはアメリカなどを含む西欧近代国家である。つまり、ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を直接支えてきた言語のひとつである。

(2) 言語としての学習の容易さ

言語は文法から出発して個別の場合に適用して理解できる部分と、語法として覚えてしまわなければならない部分とを持ち合わせているが、ドイツ語学習の初期段階においては、文法で解釈できる部分が多い。公理や定理から出発して個別の場合に敷衍的に適用していく手法は理科系科目の各分野において現れるもので、九工大の学生にとっては受け入れやすいものである。

(3) ドイツ及びドイツ語圏諸国の魅力

(ア) 多元的社会的創造

ドイツは国家成立の経緯から連邦制を取っている。また、現在のドイツは東欧圏や南欧圏、さらにはトルコを含む周辺の諸国から多くの移民を受け入れている。連邦制による地方分権も進んでおり、国家として多元的社会的創造を実現している。

EU は国家の連合体であり、その成り立ちからして多元的社会的創造を目指している。ドイツは EU の中心的役割を担っており、多元的社会的創造に寄与している。

(イ) 環境先進国としてのドイツ

また、全世界的な関心を集めている環境問題に関しても、森林枯死などの問題を通じて、技術的にも制度的にも世界の最先端を進んでいる。

(ウ) 学術的・文化的影響

ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を担ってきたので、自然科学上の重要な論文には、ドイツ語で書かれたものも数多くある。ドイツ語を学ぶことは、そうした自然科学や、その他の学術的・文化的魅力に直接触れるきっかけも提供してくれるだろう。

(エ) ドイツ語圏諸国

ドイツ語は、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインなどでも公用語として使われている。モーツァルトやシューベルトが生まれ、ベートーベンやブラームスが半生を過ごしたオーストリアは、「音楽の国」として世界に並ぶものがない。オーストリアはまた、フロイトやアドラーを生んだ心理学の国としても知られるし、ハプスブルク時代から続くその多様な文化には、ヨーロッパ文化の縮図を見ることが出来る。政治的にはオーストリアもスイスも永世中立国であり、13世紀まで遡ることのできるスイスの連邦制は今も世界のお手本となっている。4つの言語が話されるスイスは、作家トーマス・マンが「ヨーロッパの中のヨーロッパ」と呼んだことでも分かる通り、多文化社会の先進国といえる。

【ドイツ語学習の目的・目標について】

ドイツ語では現在選択必修・選択に分け、次のような講義を開講している。

【選択必修】 基礎ドイツ語AⅠ（前期1単位）、
基礎ドイツ語AⅡ（後期1単位）
基礎ドイツ語B（前・後期1単位）

【選択】 選択ドイツ語A（前・後期1単位）
選択ドイツ語BⅠ（前期1単位）、
選択ドイツ語BⅡ（後期1単位）
選択ドイツ語CⅠ（前期1単位）、
選択ドイツ語CⅡ（後期1単位）

1. ドイツ語を学習する第一の目的は、先に述べた『言葉の役割』に鑑みて、「ドイツ語の学習を通じ、言葉によってものを考える力を養う」ことにある。基礎ドイツ語AⅠ・AⅡにおいては、ドイツ語初級文法の全体的な成り立ち方を論理的に理解・定着させることにより、ドイツ語文法の基礎を習得し、新たな思考の枠組みを作り上げることを目標とする。

2. 基礎ドイツ語Bにおいては、『母（国）語と外国語』で述べた言語が文化を規定する面に重点をおいて学習することを目的とする。言語が文化と最も直接に関わるのは、その表現においてである。基礎ドイツ語Bにおいては、ドイツ語の表現力を養うことにより、ドイツ語独自の文化形式を理解することが目標となる。文法そのものが対象ではないので、様々な教材を用いる可能性がある。また、ネイティブ・スピーカーによるコミュニケーション能力の育成、長文読解を通じての表現力の涵養や、もっと直接に独作文による表現力の養成も可能である。なお、前期または後期一単位ではこの目的にはとても足りないため、選択ドイツ語Aも併せて履修することを強く推奨する。選択ドイツ語Aにおいて目的・目標とされることは、基本的には基礎ドイツ語Bの発展である。

3. 選択ドイツ語BⅠ・BⅡにおいては、『ドイツ語を学ぶ意義』で述べた近現代のドイツの重要性と深く関わる部分にスポットを当てて学習することを目的とする。これも教師がどの部分を重視するかによって、選ばれる教材は異なる。ある教師は、直接にドイツの現代の環境問題について述べたテキストを教材に選ぶかもしれない。ある教師は、現代ドイツの環境問題は、ドイツの思想界・文学界が積み上げてきた自然との格闘にその根源を持つと考えて、ゲーテの詩を読むかもしれない。また、ある教師は、ドイツ語の多元的社会的創造を担う側面を重視したり、ドイツ語のコミュニケーション能力をさらに発展させる授業を行うかも知れない。いずれにしても、『ドイツ及びドイツ語圏諸国の魅力』を理解することを目標とする。

4. 選択ドイツ語CⅠ・CⅡにおいては、『英語以外の言語を学ぶ重要性（真の国際性の養成）』や『ドイツ語を学ぶ意義』で述べられた内容を最も高いレベルにおいて、実現するものとなる。

【履修上の注意点】

(1) 基礎ドイツ語AⅠ、AⅡ、基礎ドイツ語Bはクラス指定制をとっているため、所定のクラスで受講すること。

(2) 十分なドイツ語の力を身につけるためには選択ドイツ語A、選択ドイツ語BⅠ、BⅡ、選択ドイツ語CⅠ、CⅡを積極的に受講することが望ましい。

※再履修に関して

(1) 再履修に関しても基礎ドイツ語AⅠ、AⅡ、基礎ドイツ語Bはクラス指定制をとっているため、所定のクラスでの受講者を優先する。

(2) 所定のクラス以外での受講は適正規模の範囲内で認められる。

(3) 受講希望者数が適正規模を越えた場合には履修を制限することがあるので、掲示に注意すること。

基礎ドイツ語A I Basic German A I

電気工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位
担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語A II」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

後期の「基礎ドイツ語A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持つて行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現の一つを紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書:尾川浩/江代修/金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)
独和辞典:第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火・木曜のそれぞれ午後2時から午後5時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

基礎ドイツ語A I Basic German A I

物質工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位
担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語A II」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

後期の「基礎ドイツ語A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持つて行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現の一つを紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書:尾川浩/江代修/金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)
独和辞典:第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火・木曜のそれぞれ午後2時から午後5時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

電気工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前学期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

アルファベートと発音

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化（2）

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

話法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷建治他:ドイツ語ルネサンス 第2版——文法+Text(三修社)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯はS310に掲示）

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

物質工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前学期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

アルファベートと発音

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化（2）

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

話法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷建治他:ドイツ語ルネサンス 第2版——文法+Text(三修社)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯はS310に掲示）

基礎ドイツ語 A I

機械知能・建設社会 第1年次 前期 選択必修 1単位
担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記の (1) 導入期の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：湯浅英男編

「新訂・12課で学ぶドイツ文法」(同学社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A I

物質 第1年次 前期(水曜2限) 選択必修 1単位
担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記(1)導入期の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：大岩信太郎著「英語対照 新ドイツ語文法14時間」三修社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A I

物質 第1年次 前期（水曜3限） 選択必修 1単位
担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてもものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記 (1) 導入期の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：太田隆士他「楽しいドイツ語トレーニング」（三修社）

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

建設社会工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位
担当教員 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「ドイツ語授業科目について」(外国語を学ぶ意義)を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語授業科目について」(ドイツ語の授業の目的・目標について)を参照。

●授業の位置付け

同上。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

4. 授業計画

{1} あいさつと自己紹介

- ①動詞の現在人称変化1 規則動詞
- ②動詞の現在人称変化2 sein, haben
- ③定動詞の位置
- ④ja/nein/doch

{2} 買い物をする

- ⑤定冠詞・不定冠詞＋名詞の格変化
- ⑥人称代名詞
- ⑦名詞の複数形

{3} 家族のことを話す

- ⑧dieser型冠詞類・mein型冠詞類＋名詞の格変化
- ⑨2格の使い方
- ⑩否定文

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行う。

1つのユニットはおおよそ5回の授業で終了する予定。

5. 評価方法・基準

期末試験および演習やレポートの結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

特になし。

7. 教科書・参考書

[教科書] 山本淳：新々・じゃあまたあした！（同学社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

電気工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位
担当教員 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「ドイツ語授業科目について」(外国語を学ぶ意義)を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語授業科目について」(ドイツ語の授業の目的・目標について)を参照。

●授業の位置付け

同上。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

4. 授業計画

{0} 発音 Stufe 1

{1} 動詞の現在人称変化 (1) / たずね方 / 2人称の Sie と du
発音 Stufe 2

{2} 名詞の性と冠詞 / sein と haben / Ihr と mein / 定形第2位
／否定の語 nicht

{3} 名詞の格 / 定冠詞と不定冠詞の格変化 / 男性弱変化名詞 /
名詞の複数形 / 否定冠詞 kein

{4} 動詞の現在人称変化 (2) / 前置詞

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行う。

1つのユニットはおおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価方法・基準

期末試験および演習やレポートの結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

特になし。

7. 教科書・参考書

[教科書] 大谷弘道・新・問いかけるドイツ語 改訂版 (同学社)

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

電気 第1年次 前期 (月曜3限) 選択必修 1単位
担当教員 本田義昭

1. 概要

●授業の目的

ドイツ語の文法知識を習得し、会話や文献購読のための基礎となる語学力を養うこと。

●授業の位置付け

テレビのブラウン管、ディーゼルエンジン、電波の振動数の単位ヘルツ、超音速を表わすマッハ、レントゲンなどはそれを発明・発見したドイツ語圏の科学者・技術者の名前から来ています。このようにドイツ語圏の先人が果たした功績は、自然科学、特に科学技術の発展の礎となりました。工学部の一般教育でドイツ語を学ぶことは科学技術のバックボーンに触れる非常によい機会であると思われます。

2. キーワード

ドイツ語、文法、基礎

3. 到達目標

ドイツ語の基礎的な文法知識を習得し、ドイツ語の文章を自分で読んだり書いたり、簡単な会話ができるようになる。

4. 授業計画

ドイツ語の個々の文法事項ごとに分かりやすい用例を使って解説し、それに関する練習問題を宿題として課す。次の授業時に宿題をチェックし、説明を加える。1年間で基礎的な文法事項をすべて取り上げる予定。

第1回 前期授業の概要説明

第2回 つづりと発音

第3回 動詞の現在人称変化 (1)

第4回 du と Sie

第5回 語順

第6回 名詞の性と複数形

第7回 人称代名詞

第8回 定冠詞、不定冠詞

第9回 冠詞のなかま

第10回 否定文

第11回 動詞の現在人称変化 (2)

第12回 前置詞

第13回 話法の助動詞・未来形

第14回 接続詞

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験70点＋平常点30点 (宿題、授業中の発表など) で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

(1) 授業に積極的に参加すること。

(2) よほど特別のことがない限り毎回出席すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 森田悟／川上博子『クールですねドイツ語』 (朝日出版社)

●参考書 最初の授業で初心者向けの独和辞典を数種類紹介する。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

機械知能・建設社会 第1年次 前期（月曜4限） 選択必修
1単位

担当教員 本田義昭

1. 概要

●授業の目的

ドイツ語の文法知識を習得し、会話や文献購読のための基礎となる語学力を養うこと。

●授業の位置付け

テレビのブラウン管、ディーゼルエンジン、電波の振動数の単位ヘルツ、超音速を表わすマッハ、レントゲンなどはそれを発明・発見したドイツ語圏の科学者・技術者の名前から来ています。このようにドイツ語圏の先人が果たした功績は、自然科学、特に科学技術の発展の礎となりました。工学部の一般教育でドイツ語を学ぶことは科学技術のバックボーンに触れる非常によい機会であると思われます。

2. キーワード

ドイツ語、文法、基礎

3. 到達目標

ドイツ語の基礎的な文法知識を習得し、ドイツ語の文章を自分で読んだり書いたり、簡単な会話ができるようになる。

4. 授業計画

ドイツ語の個々の文法事項ごとに分かりやすい用例を使って解説し、それに関する練習問題を宿題として課す。次の授業時に宿題をチェックし、説明を加える。1年間で基礎的な文法事項をすべて取り上げる予定。

第1回 前期授業の概要説明

第2回 つづりと発音

第3回 人称代名詞、動詞の現在人称変化

第4回 duとSie

第5回 名詞の性

第6回 語順

第7回 定冠詞

第8回 不定冠詞

第9回 名詞の複数形

第10回 並列の接続詞

第11回 所有冠詞、否定冠詞

第12回 人称代名詞の格変化

第13回 現在人称変化の不規則な動詞

第14回 非人称のes

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験70点＋平常点30点（宿題、授業中の発表など）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

（1）授業に積極的に参加すること。

（2）よほど特別のことがない限り毎回出席すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 秋田静男（他）『ドイツ語インフォメーション』（朝日出版社）

●参考書 最初の授業で初心者向けの独和辞典を数種類紹介する。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

機械知能・建設社会 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

4. 授業計画

第1回 導入 アルファベット・発音練習

第2回 Lektion 1 動詞の人称変化

第3回 Lektion 2 〃

第4回 Lektion 3 語順

第5回 Lektion 3 副文・接続詞

第6回 Lektion 4 前置詞

第7回 Lektion 5 〃

第8回 Lektion 5 不規則動詞

第9回 Lektion 6 冠詞類の格変化

第10回 Lektion 6 〃

第11回 Lektion 7 形容詞の格変化

第12回 Lektion 7 〃

第13回 Lektion 8 再帰代名詞

第14回 Lektion 9 分離動詞

第15回 （試験）

5. 評価方法・基準

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。

60点以上を合格とする。

7. 教科書・参考書

【図書名】『実を結ぶドイツ語』（Sprachfelder）

【著者名】松本嘉久 著

【出版社】朝日出版社

【価格】2300円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道 他著 同学社
4200円

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

電気工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後学期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

アルファベートと発音

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化（2）

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

話法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷建治他:ドイツ語ルネサンス 第2版——文法+Text(三修社)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯はS310に掲示）

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

物質工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後学期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

アルファベートと発音

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化（2）

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

話法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷建治他:ドイツ語ルネサンス 第2版——文法+Text(三修社)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯はS310に掲示）

基礎ドイツ語 A II

機械知能・建設社会 第1年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A II の授業では、上記 (2)、(3) の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：湯浅英男編

「新訂・12課で学ぶドイツ文法」(同学社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A II

物質 第1年次 後期(水曜2限) 選択必修 1単位
担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A II の授業では、上記 (2)、(3) の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：大岩信太郎著「英語対照 新ドイツ語文法14時間」三修社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A II

物質 第1年次 後期（水曜3限） 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A II の授業では、上記 (2)、(3) の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：太田隆士他「楽しいドイツ語トレーニング」(三修社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

電気工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持つて行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では1～2回で1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)
独和辞典：「基礎ドイツ語 A I」で使ったもの

8. 学生面会時間

火・木曜のそれぞれ午後2時から午後5時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

物質工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語AⅠ」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では1～2回で1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2／3）および、平常点（1／3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」（三修社）
独和辞典：「基礎ドイツ語AⅠ」で使ったもの

8. 学生面会時間

火・木曜のそれぞれ午後2時から午後5時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

建設社会工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位
担当教員 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「ドイツ語授業科目について」（外国語を学ぶ意義）を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語授業科目について」（ドイツ語の授業の目的・目標について）を参照。

●授業の位置付け

同上。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

4. 授業計画

[4] 週末の予定は？

⑪動詞の現在人称変化 3 不規則動詞

⑫前置詞

[5] 駅やレストランで

⑬分離動詞・非分離動詞

⑭話法の助動詞

⑮接続詞

[6] Berlin旅行の後で／お礼の手紙

⑯命令文

⑰動詞の3基本形

⑱過去の表現

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行う。

1つのユニットはおおよそ5回の授業で終了する予定。

5. 評価方法・基準

期末試験および演習やレポートの結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

特になし。

7. 教科書・参考書

[教科書] 山本淳：新々・じゃあまたあした！（同学社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

電気工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位
担当教員 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「ドイツ語授業科目について」(外国語を学ぶ意義)を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語授業科目について」(ドイツ語の授業の目的・目標について)を参照。

●授業の位置付け

同上。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

4. 授業計画

- {5} 冠詞グループの格変化／人称代名詞の格変化
- {6} 形容詞の格変化／形容詞の比較変化
- {7} 語法の助動詞／分離動詞／副文(定形後置)
- {8} 動詞の3基本形／過去の人称変化／接続詞
- {9} 現在完了／語法の助動詞の完了形／過去分詞にge-のつかない動詞／分離動詞の過去分詞
- *上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行う。
- 1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価方法・基準

期末試験および演習やレポートの結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

特になし。

7. 教科書・参考書

[教科書] 大谷弘道:新・問いかけのドイツ語 改訂版(同学社)

8. オフィスアワー**基礎ドイツ語 A II** Basic German A

電気 第1年次 後期(月曜3限) 選択必修 1単位
担当教員 本田義昭

1. 概要

●授業の目的

ドイツ語の文法知識を習得し、会話や文献購読のための基礎となる語学力を養うこと。

●授業の位置付け

テレビのブラウン管、ディーゼルエンジン、電波の振動数の単位ヘルツ、超音速を表わすマッハ、レントゲンなどはそれを発明・発見したドイツ語圏の科学者・技術者の名前から来ています。このようにドイツ語圏の先人が果たした功績は、自然科学、特に科学技術の発展の礎となりました。工学部の一般教育でドイツ語を学ぶことは科学技術のバックボーンに触れる非常にいい機会であると思われます。

2. キーワード

ドイツ語、文法、基礎

3. 到達目標

ドイツ語の基礎的な文法知識を習得し、ドイツ語の文章を自分で読んだり書いたり、簡単な会話ができるようになる。

4. 授業計画

ドイツ語の個々の文法事項ごとに分かりやすい用例を使って解説し、それに関する練習問題を宿題として課す。次の授業時に宿題をチェックし、説明を加える。1年間で基礎的な文法事項をすべて取り上げる予定。

第1回 後期授業の概要説明

第2回 分離動詞

第3回 非分離動詞

第4回 zu不定詞

第5回 過去形

第6回 現在完了形

第7回 再帰代名詞

第8回 受動態

第9回 形容詞

第10回 比較表現

第11回 関係代名詞

第12回 関係副詞

第13回 接続法1式

第14回 接続法2式

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験70点+平常点30点(宿題、授業中の発表など)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

(1) 授業に積極的に参加すること。

(2) よほど特別のことがない限り毎回出席すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 森田悟／川上博子『クールですねドイツ語』(朝日出版社)

●参考書 必要に応じて紹介する。

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

建設社会・機械知能 第1年次 後期（月曜4限） 選択必修
1単位

担当教員 本田義昭

1. 概要

●授業の目的

ドイツ語の文法知識を習得し、会話や文献購読のための基礎となる語学力を養うこと。

●授業の位置付け

テレビのブラウン管、ディーゼルエンジン、電波の振動数の単位ヘルツ、超音速を表わすマッハ、レントゲンなどはそれを発明・発見したドイツ語圏の科学者・技術者の名前から来ています。このようにドイツ語圏の先人が果たした功績は、自然科学、特に科学技術の発展の礎となりました。工学部の一般教育でドイツ語を学ぶことは科学技術のバックボーンに触れる非常によい機会であると思われます。

2. キーワード

ドイツ語、文法、基礎

3. 到達目標

ドイツ語の基礎的な文法知識を習得し、ドイツ語の文章を自分で読んだり書いたり、簡単な会話ができるようになる。

4. 授業計画

ドイツ語の個々の文法事項ごとに分かりやすい用例を使って解説し、それに関する練習問題を宿題として課す。次の授業時に宿題をチェックし、説明を加える。1年間で基礎的な文法事項をすべて取り上げる予定。

第1回 後期授業の概要説明

第2回 前置詞

第3回 数詞

第4回 話法の助動詞

第5回 不定代名詞 man

第6回 分離動詞

第7回 命令形

第8回 形容詞の格変化

第9回 再帰代名詞と再帰動詞

第10回 動詞の3基本形

第11回 過去人称変化

第12回 従属の接続詞

第13回 現在完了

第14回 分離動詞の現在完了

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験70点＋平常点30点（宿題、授業中の発表など）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

（1）授業に積極的に参加すること。

（2）よほど特別のことがない限り毎回出席すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 秋田静男（他）『ドイツ語インフォメーション』（朝日出版社）

●参考書 必要に応じて紹介する。

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

機械知能・建設社会 第1年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

4. 授業計画

第1回 Lektion 10 話法の助動詞

第2回 Lektion 10 ク

第3回 Lektion 11 過去形

第4回 Lektion 11 現在完了形

第5回 Lektion 11 ク

第6回 Lektion 12 受動態

第7回 Lektion 13 比較

第8回 Lektion 13 ク

第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト

第10回 Lektion 14 ク まとめ小テスト

第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト

第12回 Lektion 15 ク まとめ小テスト

第13回 まとめ演習 まとめ小テスト

第14回 まとめ演習 まとめ小テスト

第15回 （試験）

5. 評価方法・基準

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。

60点以上を合格とする。

7. 教科書・参考書

【図書名】『実を結ぶドイツ語』（Sprachfelder）

【著者名】松本嘉久 著

【出版社】朝日出版社

【価格】2300円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道 他著 同学社

4200円

基礎ドイツ語 B Basic German B

電気工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Aと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

挨拶

飲食

紹介

散策

旅行

旅行の思い出

買い物

招待

出発

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

Schmidt他：はじめようドイツ語（郁文堂）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯はS310に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

物質工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Aと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

挨拶

飲食

紹介

散策

旅行

旅行の思い出

買い物

招待

出発

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

Schmidt他：はじめようドイツ語（郁文堂）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯はS310に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科、建設社会工学科 第1年次 後学期 選択必修
1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Aと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

ビールは好きです

これはテレビです

これは私の車です

それらは本です

私は町に行きます

私は7時半に起きます

私は旅行をするつもりです

私はもう昼食をすませました

これは赤いボールです

フランクはヴェルナーよりも背が高い

店は7時に開きます

もしもとお金があったなら

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

在問進：話すぞドイツ語！（朝日出版社）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯はS310に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

電気工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：春日正男「トア！ トア！ トア！ リニューアルバージョン - サッカーで学ぶドイツ語 -」 郁文堂

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

物質工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと(2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節「ドイツってこんな国！」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途揭示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと(2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

毎週1ページ強のドイツ語の文章を読み、練習問題を通じて知識を確実なものにしていく。教科書のみならず、必要に応じてプリント等で独作文の練習も行う。

5. 評価方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「希望のドイツ語（新訂版）」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途揭示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

電気工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

「基礎ドイツ語AⅠ」「基礎ドイツ語AⅡ」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

●授業の位置付け

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

2. キーワード

表現練習、コミュニケーション

3. 到達目標

簡単に必須の会話表現を何も見ずに言える。正しく発音できる。基本単語を綴りを間違えずに書ける。

4. 授業計画

教科書は12課からなっており、各課は、会話スケッチ、文法事項の簡単な説明、練習に分かれている。授業では1回あたり1課程度進む予定である。予習の際はスケッチ部分を正しく発音し、意味を調べ、練習をやること。

5. 評価方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新倉真矢子編：「ガービとフランク」(郁文堂)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火・木曜のそれぞれ午後2時から午後5時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

基礎ドイツ語 B Basic German B

物質工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

「基礎ドイツ語AⅠ」「基礎ドイツ語AⅡ」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

●授業の位置付け

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

2. キーワード

表現練習、コミュニケーション

3. 到達目標

簡単に必須の会話表現を何も見ずに言える。正しく発音できる。基本単語を綴りを間違えずに書ける。

4. 授業計画

教科書は12課からなっており、各課は、会話スケッチ、文法事項の簡単な説明、練習に分かれている。授業では1回あたり1課程度進む予定である。予習の際はスケッチ部分を正しく発音し、意味を調べ、練習をやること。

5. 評価方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新倉真矢子編：「ガービとフランク」(郁文堂)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火・木曜のそれぞれ午後2時から午後5時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

基礎ドイツ語B Basic German B

電気工学科、物質工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位
担当教員 Gesine Goessner

1. 概要

●授業の背景

Deutsche Sprache und Kultur der deutschsprachigen Länder als Beispiel Europas.

Fremdsprachenlernen.

●授業の目的

Die in Deutsch A erworbenen Kenntnisse sollen dahingehend vertieft und erweitert werden, dass die Studenten in der Lage sind, sich in alltäglichen Situationen zu verständigen und einfache deutsche Texte zu lesen. Darüber hinaus werden Vergleiche zu Japan angestellt.

●授業の位置付け

Neben der Vermittlung grundlegender Kenntnisse des Deutschen, erlernen die Studenten das Handwerkszeug, sich mit geringen Kenntnissen in der fremden Sprache zu bewegen.

2. キーワード

Deutsche Sprache, Kultur deutschsprachiger Länder, Europa, Bestehen in einer Fremdsprache

3. 到達目標

Über sich selbst sprechen und andere zu persönlichen Dingen befragen.

Ein Gerüst der Selbsthilfe im Deutschen in der Hand zu haben: immer auf Deutsch reagieren zu können, eventuell anzugeben, dass man nicht versteht und sich mittels Verständnisfragen, die auch andere Fremdsprachen wie Englisch einbeziehen können, weiterzuhelfen.

4. 授業計画

- 第1回 Einführung
- 第2回 Begrüßung, Name; Aufforderung zu sprechen
- 第3回 Fragen nach Befinden; Nichtverstehen ausdrücken, kennen
- 第4回 Namen im Kulturvergleich; Unbekannte Vokabeln erfragen
- 第5回 Zusammenfassung: mündlicher Dialog
- 第6回 Wohnort; Ausdruck des Nicht-Sagen-Könnens auf Deutsch
- 第7回 Herkunft; Aufforderung zum Hören, Lesen, Schreiben
- 第8回 Zusammenfassung: mündlicher Dialog
- 第9回 Freut mich!; Ausdruck des Nicht-Wissens
- 第10回 Beruf; Aufforderung zum Fragen und Antworten
- 第11回 Zusammenfassung: mündlicher Dialog
- 第12回 Hobby; Aufforderung zum Übersetzen
- 第13回 Zusammenfassung: mündlicher Dialog
- 第14回 Gesamtwiederholung
- 第15回 試験 mündliche Präsentation eines Dialogs

5. 評価方法・基準

Es wird ein mündlicher Abschlusstest durchgeführt (70 %).
Darüber hinaus fließt die Art und Weise der Teilnahme am Unterricht in die Bewertung ein (30%).

6. 履修上の注意事項

Regelmäßige und aktive Teilnahme

7. 教科書・参考書

- 教科書: Szenen 1 neu, (Sanshusha)
- 参考書: Deutsch-japanisches Wörterbuch

8. Sprechstunde u.a.

Montag 9.00-12.00
Freitag 14.30-17.00
E-mail: goessner@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語B Basic German B

機械知能工学科、建設社会工学科 第1年次 後学期
選択必修 1単位

担当教員 Gesine Goessner

1. 概要

●授業の背景

Deutsche Sprache und Kultur der deutschsprachigen Länder als Beispiel Europas.

Fremdsprachenlernen.

●授業の目的

Die in Deutsch A erworbenen Kenntnisse sollen dahingehend vertieft und erweitert werden, dass die Studenten in der Lage sind, sich in alltäglichen Situationen zu verständigen und einfache deutsche Texte zu lesen. Darüber hinaus werden Vergleiche zu Japan angestellt.

●授業の位置付け

Neben der Vermittlung grundlegender Kenntnisse des Deutschen, erlernen die Studenten das Handwerkszeug, sich mit geringen Kenntnissen in der fremden Sprache zu bewegen.

2. キーワード

Deutsche Sprache, Kultur deutschsprachiger Länder, Europa, Bestehen in einer Fremdsprache

3. 到達目標

Über sich selbst sprechen und andere zu persönlichen Dingen befragen.

Ein Gerüst der Selbsthilfe im Deutschen in der Hand zu haben: immer auf Deutsch reagieren zu können, eventuell anzugeben, dass man nicht versteht und sich mittels Verständnisfragen, die auch andere Fremdsprachen wie Englisch einbeziehen können, weiterzuhelfen.

4. 授業計画

- 第1回 Einführung
- 第2回 Begrüßung, Name; Aufforderung zu sprechen
- 第3回 Fragen nach Befinden; Nichtverstehen ausdrücken, kennen
- 第4回 Namen im Kulturvergleich; Unbekannte Vokabeln erfragen
- 第5回 Zusammenfassung: mündlicher Dialog
- 第6回 Wohnort; Ausdruck des Nicht-Sagen-Könnens auf Deutsch
- 第7回 Herkunft; Aufforderung zum Hören, Lesen, Schreiben
- 第8回 Zusammenfassung: mündlicher Dialog
- 第9回 Freut mich!; Ausdruck des Nicht-Wissens
- 第10回 Beruf; Aufforderung zum Fragen und Antworten
- 第11回 Zusammenfassung: mündlicher Dialog
- 第12回 Hobby; Aufforderung zum Übersetzen
- 第13回 Zusammenfassung: mündlicher Dialog
- 第14回 Gesamtwiederholung
- 第15回 試験 mündliche Präsentation eines Dialogs

5. 評価方法・基準

Es wird ein mündlicher Abschlusstest durchgeführt (70 %).
Darüber hinaus fließt die Art und Weise der Teilnahme am Unterricht in die Bewertung ein (30%).

6. 履修上の注意事項

Regelmäßige und aktive Teilnahme

7. 教科書・参考書

- 教科書: Szenen 1 neu, (Sanshusha)
- 参考書: Deutsch-japanisches Wörterbuch

8. Sprechstunde u.a.

Montag 9.00-12.00
14.00-17.00
Dienstag 9.00-12.00
E-Mail: goessner@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語B Basic German B

電気・物質 第1年次 前学期 選択必修 1単位

担当教員 Erwin Niederer

1. 目的

基本的な文法と単語をもとにして、ドイツ語をゼロから学べるようなコースになっています。ドリルの練習によって、少しずつ簡単な会話の力をつけることが大事な目的の一つです。具体的なダイアログによって日本とドイツの生活や、文化と言葉の違いについての勉強によって国際的な考え方を深めることも大切なポイントになっています。

2. 授業計画

1. 教材(文法読本)のドイツ語を正しく発音することができる。
2. 基本的な文法事項・語彙・文型について説明することができる。
3. 初級レベルのドイツ語作品を日本語に訳すことができる。
4. 与えられた簡単な日本語をドイツ語に訳すことができる。
5. 辞典を利用する場合に、適切な語や例文を選ぶことができる。

3. 評価方法

試験結果と平常点で評価する。

4. 履修上の注意事項

- (1) よほど特別な理由がない限り毎回出席すること。
- (2) 授業に積極的に参加すること。

5. 教科書

近藤他編「Dialog --- ベーシック版」郁文堂

基礎ドイツ語B Basic German B

機械知能・建設社会 第1年次 後学期 選択必修 1単位

担当教員 Erwin Niederer

1. 目的

基本的な文法と単語をもとにして、ドイツ語をゼロから学べるようなコースになっています。ドリルの練習によって、少しずつ簡単な会話の力をつけることが大事な目的の一つです。具体的なダイアログによって日本とドイツの生活や、文化と言葉の違いについての勉強によって国際的な考え方を深めることも大切なポイントになっています。

2. 授業計画

1. 教材(文法読本)のドイツ語を正しく発音することができる。
2. 基本的な文法事項・語彙・文型について説明することができる。
3. 初級レベルのドイツ語作品を日本語に訳すことができる。
4. 与えられた簡単な日本語をドイツ語に訳すことができる。
5. 辞典を利用する場合に、適切な語や例文を選ぶことができる。

3. 評価方法

試験結果と平常点で評価する。

4. 履修上の注意事項

- (1) よほど特別な理由がない限り毎回出席すること。
- (2) 授業に積極的に参加すること。

5. 教科書

平川・Niederer・島浦共編「やさしい初級ドイツ語読本」同
学社

ISBN 4-8102-0715-3

選択ドイツ語A Elective German A

全学科 第1年次 後学期 選択 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解し発展させる。

●授業の位置付け

基礎ドイツ語A、Bで修得したドイツ語の基礎を発展させ、選択ドイツ語Bへつなげる学力を養成する。

2. キーワード

ドイツ語、ドイツ、言葉、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に習熟する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

ビールは好きです

これはテレビです

これは私の車です

それらは本です

私は町に行きます

私は7時半に起きます

私は旅行をするつもりです

私はもう昼食をすませました

これは赤いボールです

フランクはヴェルナーよりも背が高い

店は7時に開きます

もしもとお金があったなら

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

在問進：話すぞドイツ語！（朝日出版社）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯はS310に掲示）

選択ドイツ語A Elective German A

全学科 第1年次 後期 選択 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

基礎ドイツ語A、基礎ドイツ語Bで学んだ知識をもとに、その知識を生きたものとして使いこなすことができるようにする。それを通じてドイツ語圏の文化や社会に出会う。

●授業の位置付け

頭で知っている、というレベルから、自らの技能として身に付ける、というレベルへの発展。つまり、基礎段階の完成、ドイツ語学習の始まりの終わり。

2. キーワード

会話表現、平易な文章の読解、コミュニケーション、文化事情

3. 到達目標

半年の授業では到底充分ではないが、辞書を使えば簡単な文章を独力で正確に読める、最低限必要な表現を何も見ずに正しい発音で言える、というところまで持って行く。

4. 授業計画

2006年はモーツァルトの生誕から250年の節目であるから、モーツァルトをテーマにした教科書を使う。

第1回：オリエンテーション（アルファベートと発音の復習）

第2回：モーツァルトの家族（紹介する・動詞の復習）

第3回：ピアノ・レッスン（冠詞と名詞の格変化の復習）

第4回：マリア・テレジアの許で（前置詞の復習）

第5回：ミラノで（話法の助動詞、再帰動詞の復習）

第6回：マンハイムで（分離動詞・未来形の復習）

第7回：パリで（比較の復習）

第8回：ザルツブルクとの訣別（形容詞の格変化の復習）

第9回：後宮からの誘拐（現在完了の復習）

第10回：コンスタンツェ・ヴェーバー（過去形の復習）

第11回：自由な芸術家モーツァルト（接続詞の復習）

第12回：『フィガロの結婚』（受動態の復習）

第13回：『魔笛』（関係代名詞の復習）

第14回：モーツァルトの死（接続法の復習）

第15回：『夕べの想い』、まとめ

第16回：試験

5. 評価方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2／3）および、平常点（1／3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：牧野アンゲリカ著『モーツァルトとドイツ語を』（第三書房）

参考書：一年のときに使った文法の教科書（予習の際参照すること）

8. 学生面会時間

火・木曜のそれぞれ午後2時から午後5時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

選択ドイツ語 A Elective German A

全学科 第1年次 後期 選択 1単位
担当教員 能木 敬次

1. 概要

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

前期に学習した基本文法の知識を短めの読本演習で確認しながら、接続詞・形容詞の不可語変化・完了形といった後期学習予定の文法を教える。テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

4. 授業計画

- 第1回 導入 オリエンテーリング
- 第2回 Lektion 1
- 第3回 Lektion 2
- 第4回 Lektion 3
- 第5回 Lektion 4
- 第6回 Lektion 5
- 第7回 Lektion 6
- 第8回 Lektion 7
- 第9回 Lektion 8
- 第10回 Lektion 9
- 第11回 Lektion 10
- 第12回 Lektion 11
- 第13回 Lektion 12
- 第14回 Lektion 13
- 第15回 (試験)

5. 評価方法・基準

定期試験(40%)および小テスト(60%)で評価する。
60点以上を合格とする。

7. 教科書・参考書

- 【図書名】『ドイツ語サウンドスケープ』
- 【著者名】末永豊他著
- 【出版社】三修社
- 【価格】2500円
- 【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道 他著 同学社 4200円

選択ドイツ語 A Elective German A

全学科 第2年次 前期 選択 1単位
担当教員 能木 敬次

1. 概要

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

ドイツ語の基礎的文法知識を踏まえて、一定のテーマを持った比較的簡単なドイツ語文を読む訓練をする。辞書を使いながら一貫した文脈のあるドイツ語文を読む技術を身につけるのがこの授業の目標である。

4. 授業計画

- 第1回 導入 オリエンテーリング
- 第2回 Lektion 1
- 第3回 Lektion 2
- 第4回 Lektion 3
- 第5回 授業調整
- 第6回 Lektion 4
- 第7回 Lektion 5
- 第8回 Lektion 6
- 第9回 授業調整
- 第10回 Lektion 7
- 第11回 Lektion 8
- 第12回 Lektion 9
- 第13回 数学・物理用語演習
- 第14回 数学・物理用語演習
- 第15回 (試験)

5. 評価方法・基準

定期試験(40%)および小テスト(60%)で評価する。
60点以上を合格とする。

7. 教科書・参考書

- 【図書名】『「青い地球」は守れるか』
- 【著者名】Hermann Troll, 石井寿子 著
- 【出版社】同学社
- 【価格】1600円
- 【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道 他著 同学社 4200円

選択ドイツ語 B I Elective German B I

全学科 第2年次 前学期 選択 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

ドイツを舞台にした若者たちの対話を扱った平明なテキストを素材にして、音声、文字の両面からドイツ語とドイツに関する理解力を発展させる。

●授業の位置付け

1年次に基礎ドイツ語A、Bで修得したドイツ語の基礎を発展させ、選択ドイツ語BⅡ、Cへつなげる学力を養成する。

2. キーワード

ドイツ語、ドイツ、言葉、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語とドイツに関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力を発展させる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

アルファベートと発音

私の名前はユーリア

プレゼント

練習と名人

誕生日

ユーリアの訪問

買い物

メルヒェンの町ハーナウ

機知

不思議な鏡

失敗

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

西村佑子他：改訂版 ドイツ語へようこそ（同学社）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯はS310に掲示）

選択ドイツ語 B I Elective German B I

全学科 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

これまで習得したドイツ語力をさらに発展させることを通じて、論理的に物事を考える力、テキストを正しく理解する力を養成する。ドイツ語圏の文化・社会・歴史に関してその様々な側面を知る。

●授業の位置付け

初級文法や基本表現などを身につけたあと、ようやく創造的なドイツ語の学習が始まる。それがこの授業である。

2. キーワード

文化事情、読解、コミュニケーション

3. 到達目標

どんなドイツ語の文章を前にしても、辞書があればゆっくりではあっても正確に理解できる、というレベルに持って行く。自分の考えたことを片言のドイツ語ではあっても言えるようにする。

4. 授業計画

第1回：オリエンテーション。ドイツ語の歴史と現在（1）

第2回：ドイツ語の歴史と現在（2）

第3回：ドイツ国歌をめぐる謎（1）

第4回：ドイツ国歌をめぐる謎（2）

第5回：ベルリンの壁（1）

第6回：ベルリンの壁（2）

第7回：オーストリアってどんな国（1）

第8回：オーストリアってどんな国（2）

第9回：ドイツの外国人問題（1）

第10回：ドイツの外国人問題（2）

第11回：スイスについて（1）

第12回：スイスについて（2）

第13回：南チロルについて（1）

第14回：南チロルについて（2）

第15回：試験

5. 評価方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2／3）および、平常点（1／3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業の際にプリントで配布する

参考書：基礎ドイツ語Aで使った文法の教科書（予習の際繰り返し参照すること）

8. 学生面会時間

火・木曜のそれぞれ午後2時から午後5時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

選択ドイツ語 B I Elective German B I

全学 第2年次 前学期 選択 1単位

担当教員 Erwin Niederer

1. 目的

根本的な知識を深めるために、基本的な文法と単語を復習することが主な目的である。発音で自然なイントネーションを目指すために会話用の練習も行う。

2. 授業計画

教科書の内容を中心に授業を行う。プリント教材も使用する。

3. 評価方法

試験結果と平常点で評価する。

4. 履修上の注意事項

まじめに取り組むこと。

5. 教科書・参考書

前田良三「身につくドイツ語」郁文堂

選択ドイツ語 B II Elective German B II

全学科 第2年次 後学期 選択 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

ドイツの様々な町への旅行を扱った平明なテキストを素材にして、音声、文字の両面からドイツ語とドイツに関する理解力を発展させる。

●授業の位置付け

1年次に基礎ドイツ語A、Bで修得したドイツ語の基礎を発展させ、選択ドイツ語Cへつながる学力を養成する。

2. キーワード

ドイツ語、ドイツ、言葉、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語とドイツに関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力を発展させる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

ミュンヘン

アウクスブルク

マインツ

ボン

デュッセルドルフ

ゲッティンゲン

ハノーファー

ヴァイマル

ライプツィヒ

ベルリン

フランクフルト

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

宇佐美幸彦他：ドイツめぐり（ユーロ版）（朝日出版社）
840.7/U-5

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯はS310に掲示）

選択ドイツ語 B II Elective German B II

全学科 第2年次 後期 選択 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

これまで習得したドイツ語力をさらに発展させることを通じて、論理的に物事を考える力、テキストを正しく理解する力を養成する。ドイツ語圏の文化・社会・歴史に関してその様々な側面を知る。

●授業の位置付け

初級文法や基本表現などを身につけたあと、ようやく本当の創造的なドイツ語の学習が始まる。それがこの授業である。

2. キーワード

文化事情、読解、コミュニケーション

3. 到達目標

どんなドイツ語の文章を前にしても、辞書があればゆっくりではあっても正確に理解できる、というレベルに持って行く。自分の考えたことを片言のドイツ語でではあっても言えるようにする。

3. 授業計画（下記はあくまで予定である）

第1回：オリエンテーション。ドイツ語はどこからきたのか。

第2回：ドイツ語とゲルマン語

第3回：ドイツ人は哲学者で音楽家か？

第4回：それともバカンス好きのゲータラな人々か。

第5回：ドイツ人を嫌うオーストリア人

第6回：ヒトラーはオーストリア人かドイツ人か

第7回：オーストリアを嫌うオーストリア人

第8回：ドイツとフランス、その仲の良さ。

第9回：オーストリアとイタリア、ある犬猿関係

第10回：バイエルンはドイツではないのか

第11回：世界地図から消えた国（東独）

第12回：帰ってきたドイツ人

（別名：東欧から追い出された人々）

第13回：ドイツの子供たちの学力低下（それは本当に問題か）

第14回：トーマス・マン。人と文学

第15回：試験

5. 評価方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2／3）および、平常点（1／3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業の際にプリントで配布する

参考書：1年生のときに使った文法の教科書（予習の際繰り返し参照すること）

8. 学生面会時間

火・木曜のそれぞれ午後2時から午後5時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

選択ドイツ語 C I Elective German C I

全学科 第3年次 前学期 選択 1単位

担当教員 Gesine Goessner

1. 概要

●授業の背景

Deutsche Sprache und der Kultur der deutschsprachigen Länder als Beispiel Europas. Fremdsprachenlernen. Kulturspezifische Kommunikation.

●授業の目的

Vorhandene Sprachkenntnisse sollen vertieft und erweitert werden. An Beispielen der Alltagskultur wird versucht, eine Sensibilisierung für die Kulturspezifische Kommunikation zwischen Deutschen und Japanern zu erzielen.

●授業の位置付け

Neben der Vermittlung des Deutschen geht es darum, zu Erlernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache selbständig schließen kann. Darüber hinaus lernen die Studenten Fremdes und Eigenes zu betrachten.

2. キーワード

Deutsche Sprache, Alltagskultur im Vergleich: Deutschland-Japan, Bestehen in einer Fremdsprache

3. 到達目標

Lücken im Deutschen selbständig auffüllen können; einfache Aussagen über Japanisches, fragen nach Deutschem

4. 授業計画

第1回 Einführung

第2回 + 第3回 + 第4回 Personen in Deutschland und Japan

第5回 Zusammenfassung: mündliche Präsentation

第6回 + 第7回 + 第8回 Feste und Feiertage in Deutschland und Japan

第9回 Zusammenfassung: mündliche Präsentation

第10回 + 第11回 + 第12回 Jahresanfang, -ende in Deutschland und Japan

第13回 Zusammenfassung: mündliche Präsentation

第14回 Gesamtwiederholung

第15回 試験 mündliche Prüfung

5. 評価方法・基準

Es wird ein mündlicher Abschlusstest durchgeführt (70 %). Darüber hinaus fließt die Art und Weise der Teilnahme am Unterricht in die Bewertung ein (30 %).

6. 履修上の注意事項

Regelmäßige und aktive Teilnahme

7. 教科書・参考書

●教科書: Szenen 2 neu (Sanshusha)

●参考書: Deutsch-Japanisches Wörterbuch

8. Sprechstunde

Montag 9.00-12.00

Freitag 14.30-17.00

E-mail: goessner@dhs.kyutech.ac.jp

選択ドイツ語CⅡ Elective German CⅡ

全学科 第3年次 後学期 選択 1単位

担当教員 Gesine Goessner

1. 概要

●授業の背景

Deutsche Sprache; Umgang mit Texten: Probleme beim Lesen, Erschließen und Übersetzen fremdsprachiger Texte

●授業の目的

Vorhandene Kenntnisse anwenden, vertiefen und erweitern. Strategien zum Lesen und Übersetzen deutscher Texte erlernen.

●授業の位置付け

Neben der Anwendung und Vermittlung von Deutschkenntnissen, lernen die Studenten allgemeingütige Lese- und Übersetzungsstrategien kennen.

2. キーワード

Deutsche Sprache, Lesen, Zusammenfassen, Übersetzen

3. 到達目標

Zielgerichtetes Lesen und Zusammenfassen deutscher Texte mittleren Niveaus. Wissenslücken in der Fremdsprache selbstständig schließen.

3. 到達目標

4. 授業計画

第1回 Einführung

第2回 + 第3回 Hallo, Schlock!

第4回 + 第5回 Das Foto

第6回 + 第7回 Blond oder nicht blond?

第8回 Zusammenfassung

第9回 + 第10回 Typisch Schlock!

第11回 + 第12回 Die Kinder

第13回 Zusammenfassung

第14回 Vorbereitung der Übersetzung

第15回 試験 Vortrag der Übersetzung

5. 評価方法・基準

Am Ende des Kurses wird selbständig eine Übersetzung angefertigt und vorgetragen (60%). Darüber hinaus fließt die Art und Weise der Teilnahme am Unterricht in die Bewertung ein (40%).

6. 履修上の注意事項

regelmäßige und aktive Teilnahme

7. 教科書・参考書

●教科書: „Die Suche“, Lektion 1-5, (Langenscheidt),

Material wird zur Verfügung gestellt.

●参考書: Deutsch-Japanisches Wörterbuch

8. Sprechstunde

Montag 9.00-12.00

14.00-17.00

Dienstag 9.00-12.00

E-Mail: goessner@dhs.kyutech.ac.jp

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

全学科 1 年次 前学期 選択必修 1 単位

担当教員 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語はあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 中国語概説
- 第2回 発音 (1) 単母音、声調
- 第3回 発音 (2) 重母音、鼻母音
- 第4回 発音 (3) 子音
- 第5回 発音 (4) 声調変化、発音のまとめ
- 第6回 名詞述語文
- 第7回 復習
- 第8回 姓名の言い方、疑問詞疑問文
- 第9回 復習
- 第10回 形容詞述語文
- 第11回 復習
- 第12回 動詞述語文
- 第13回 復習
- 第14回 所有、存在の言い方
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験 (70%)、小テスト・出席点 (30%)
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

履修者が各クラスにつき60人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前学期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。(但し、3、4 学年の学生については無条件に履修を認める。)
出席は2/3以上なければ履修資格を失う。成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 斉藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社
参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

全学科 1 年次 前学期 選択必修 1 単位

担当教員 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視角から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

普通話の正確な発音初級会話のヒアリング力

4. 授業計画

- 1. 中国語 概説 中国語のおもしろさ
- 3. 発音基礎練習 声調
- 3. 発音基礎練習 母音
- 4. 発音基礎練習 子音
- 5. 発音基礎練習 有気音・無気音
- 6. テキスト第一課 疑問文①名前をたずねる
- 7. テキスト第二課 疑問詞疑問文 何を飲む？
- 8. テキスト第三課 動詞の使い方 何しているの？
- 9. 〃
- 10. テキスト第四課 形容詞の使い方 新車は？
- 11. 〃
- 12. テキスト第五課 助動詞の使い方 できますか？
- 13. 〃
- 14. 総復習
- 15. 定期試験

5. 評価方法

基準
定期試験90% 平常点10%
60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

出席重視
2/3以上の出席必須

7. 教科書・参考書

教科書：北京コレクション入門編（朝日出版社）

基礎中国語AⅡ Basic Chinese AⅡ

全学科 1年次 後学期 選択必修 1単位

担当教員 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 復習
- 第2回 所有と存在の言い方
- 第3回 復習
- 第4回 進行形の文、年月日
- 第5回 復習
- 第6回 助動詞、数に関して
- 第7回 復習
- 第8回 完了、変化の言い方
- 第9回 復習
- 第10回 持続、経験の言い方
- 第11回 復習
- 第12回 助動詞、強調表現
- 第13回 復習
- 第14回 結果補語、方向補語
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

原則的に後学期は前学期合格者のみの履修しか認めないが、それに相当する中国語学習歴を持つ者の履修は認める。出席は2/3以上なければ履修資格を失う。成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 斉藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社
参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語AⅡ Basic Chinese AⅡ

全学科 1年次 後学期 選択必修 1単位

担当教員 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

3. 到達目標

普通話の正確な発音初級会話のヒアリング力

4. 授業計画

- 1.中国映画上映
- 2.テキスト第六課 結果補語
- 3.テキスト第六課 可能ですか？
- 4.テキスト第七課 数量表現
- 5.テキスト第七課 いくらですか？
- 6.テキスト第八課 時間表現
- 7.テキスト第九課 方位名詞
- 8.テキスト第十課 食事の会話
- 9.テキスト第十課 メニューの読み方
- 10.テキスト第十一課 京劇
- 11.テキスト第十一課 様態補語
- 12.テキスト第十二課 オリンピック
- 13.テキスト第十二課 強調表現
- 14.総合復習
- 15.定期試験

5. 評価方法

基準定期試験90％ 平常点10％
60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

出席重視2/3以上の出席必須

7. 教科書・参考書

教科書：北京コレクション入門編（朝日出版）

8. オフィスアワー等

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 B Basic Chinese B

全学科 1 年次 後学期 選択必修 1 単位

担当教員 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の会話能力を養っていく。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 第1課（自己紹介と名詞述語文）
- 第2回 第2課（簡単な挨拶と形容詞述語文）
- 第3回 第3課（日常生活と動詞述語文）
- 第4回 第4課（数字を含んだ表現）
- 第5回 第5課（場所を表す表現）
- 第6回 第6課（休暇の過ごし方と助動詞など）
- 第7回 第7課（待ち合わせと完了表現など）
- 第8回 第8課（食事時の会話と時間表現など）
- 第9回 第9課（強調構文と進行形）
- 第10回 第10課（比較の表現）
- 第11回 第11課（程度補語と時量補語）
- 第12回 第12課（天気の状態と方向補語）
- 第13回 第13課（結果補語）
- 第14回 第14課（可能補語と使役文）
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：話したくなる中国語 周飛帆・田口善久・橋本雄一・韓越 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

全学科 1 年次 後学期 選択必修 1 単位

担当教員 岡村真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、前学期に習得した発音、基礎的な文法を復習し、「ことば」として使うことができるよう繰り返し練習する。まずは中国語を使うことに慣れ、自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほしい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化

3. 到達目標

- ① 発音を正確にマスターする
- ② 基礎的な文法をマスターする
- ③ 使えるようにする
- ④ 中国に対する知識を増やす

4. 授業計画

- 1. 受講のためのガイダンス
- 2. 自己紹介（第1課・第2課）
- 3. 「是」を使った述語文（第1課・第2課）
- 4. 形容詞述語文（第3課）
- 5. 日付・曜日（第4課）
- 6. 時間（第5課）
- 7. 存在の表現（第6課）
- 8. 「～したい」（第7課）
- 9. お金の言い方（第7課）
- 10. 「～できる」（第8課）
- 11. 「～するのがすきだ」（第8課）
- 12. 経験（第9課）
- 13. 料理（第9課・第10課）
- 14. 復習
- 15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験70%、平常点30%。合計60点以上を合格とする。
平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意点

全講義回数の2/3以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第1回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『《新版》中国語10課』（白水社、方如偉他著）

8. オフィスアワー等

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

選択中国語A Elective Chinese A

全学科 2年次 前学期 選択 1単位

担当教員 未定

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

初級中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

第1回目の授業で説明する。

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

履修者が各クラスにつき60人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前学期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。（但し、3、4学年の学生については無条件に履修を認める。）出席は2/3以上なければ履修資格を失う。成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：未定

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

選択中国語B I Elective Chinese B I

全学科 2年次 前学期 選択 1単位

担当教員 未定

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

初級中国語運用能力を発展させる。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

第1回の授業で説明する。

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

履修者が各クラスにつき60人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前学期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。（但し、3、4学年の学生については無条件に履修を認める。）出席は2/3以上なければ履修資格を失う。成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：未定

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

選択中国語BⅡ Elective Chinese BⅡ

全学科 2年次 後学期 選択 1単位

担当教員 未定

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

初級中国語運用能力を発展させる。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

第1回の授業で説明する。

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

原則的に後学期は前学期合格者のみの履修しか認めないが、それに相当する中国語学習歴を持つ者の履修は認める。出席は2/3以上なければ履修資格を失う。成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：未定

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

ロシア語AⅠ Russian AⅠ

全学 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 Shestakova Natalya

1. 講義概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

この講義の目的は全ての四つの基本的な言語熟練（聞くこと、読むこと、話すこと及び書くこと）の調和的な発展です。文法事項は用語練習で習得されています。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「ロシア語とはどんな意味？」母音と母音文字
- 第2回 テーマ「ロシア語のアルファベット①」子音①
- 第3回 テーマ「ロシア語のアルファベット②」子音②
- 第4回 テーマ「発音」単語のアクセント
- 第5回 テーマ「短文のイントネーション」簡単な問いと答え
- 第6回 テーマ「第1課①」挨拶、交際
- 第7回 テーマ「第1課②」ロシア人の名前、国名
(名詞の単数と複数)
- 第8回 テーマ「第1課③」単語テストと会話
- 第9回 テーマ「第2課①」教室でのロシア語
(動詞の人称変化形)
- 第10回 テーマ「第2課②」趣味(名詞の対格)
- 第11回 テーマ「第2課③」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第2課④」練習問題と会話
- 第13回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話

前学期末試験

5. 評価方法・基準：

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 受講上の注意

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書 戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー等

ロシア語AⅡ Russian AⅡ

全学 第2年次 後期 選択 1単位

担当教員 Shestakova Natalya

1. 講義概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

この講義の目的は全ての四つの基本的な言語熟練（聞くこと、読むこと、話すこと及び書くこと）の調和的な発展です。文法事項は用語練習で習得されています。

4. 授業計画

前学期末試験

- 第1回 テーマ「第3課①」家族の紹介(名詞の前置格)
- 第2回 テーマ「第3課②」職業(形容詞)
- 第3回 テーマ「第3課③」練習問題と会話
- 第4回 テーマ「第3課④」単語テストと会話
- 第5回 テーマ「第4課①」一日の生活(動詞の過去)
- 第5回 テーマ「第4課②」時間表現
- 第6回 テーマ「第4課③」訪問(動詞の体)
- 第7回 テーマ「第4課④」単語テストと会話
- 第8回 テーマ「第5課①」余暇(動詞の未来形)
- 第9回 テーマ「第5課②」時を表す副詞、曜日名
- 第10回 テーマ「第5課③」訪問(動詞の命令形)
- 第11回 テーマ「第5課④」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第13回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話

後学期末試験

5. 評価方法・基準：

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 受講上の注意

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書 戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー等